



公共財団法人 全日本科学技術協会（JAREC）主催

「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた
地域プラットフォーム形成シンポジウム」

第2回ワークショップ

札幌市における コロナをめぐる連携体制の構築について

札幌市保健所医療対策室 疫学担当部長
中西 香織



Contents

- 1 札幌市の感染状況の概要と感染症対策室について
- 2 札幌市保健所と大学との連携について
- 3 クラスター対応と医療機関や福祉施設との連携について
- 4 札幌市保健所と札幌市医師会との連携について
- 5 まとめ





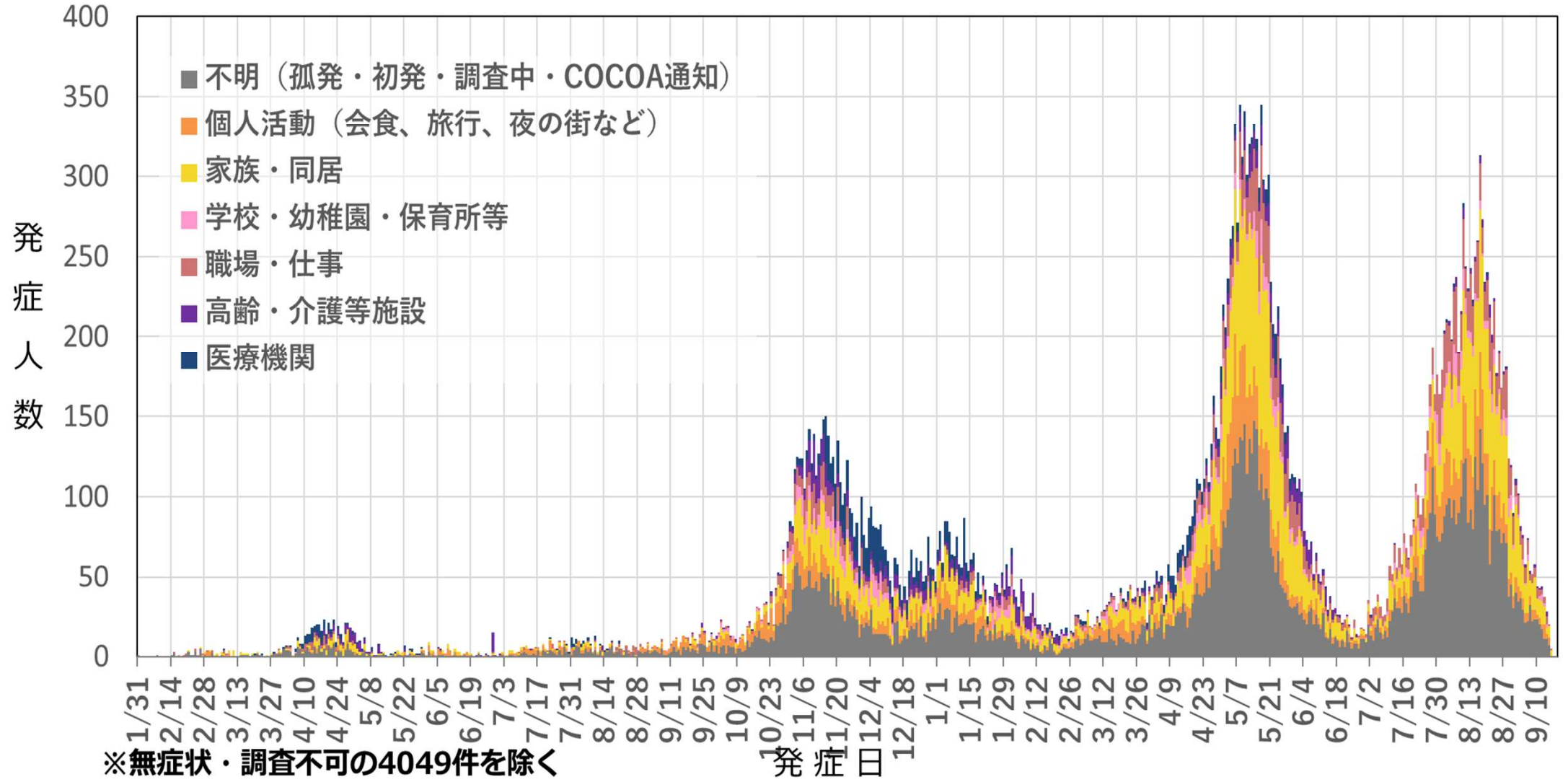
1 札幌市の感染状況の概要と 札幌市役所内の連携について



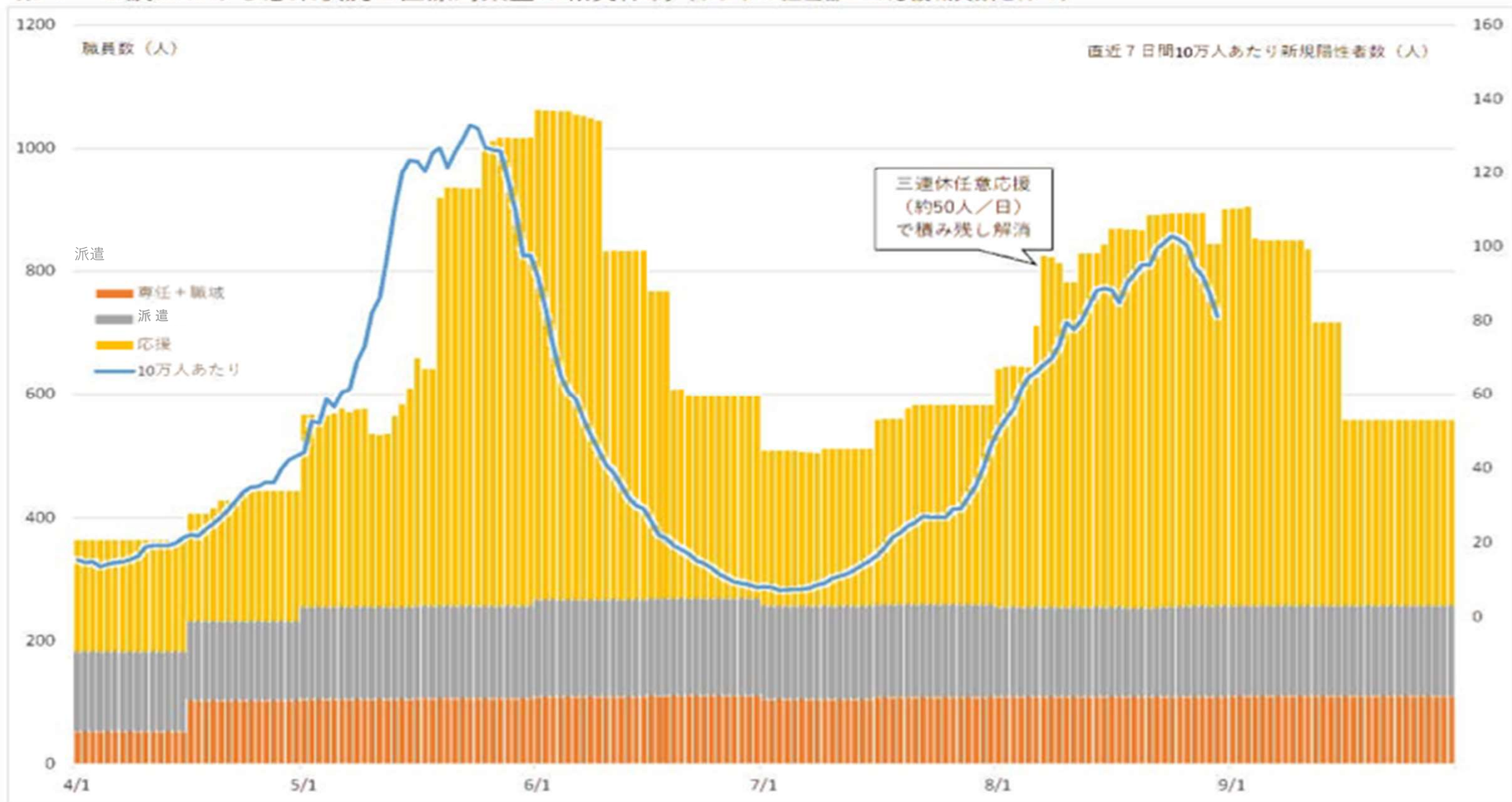
新型コロナ陽性患者の発生状況について (発症日ベース)

9月18日実績時点

(濃厚接触者の属性別 n=32673)



第4～5波における感染状況と医療対策室の職員体制（ワクチン担当部への応援職員数を除く）



受付 検査 入院・宿泊療養・自宅療養

総合案内班

- 一般電話相談窓口の運営

医療政策課

- 救急安心センターの運営

医療機関

救急安心センター #7119
(帰国者・接触者相談センター)

一般電話相談窓口
0570-085-789

全体調整等

連絡調整班 (管理係)

- 部内庶務経理等

人材調整班

- 医療従事者の派遣体制の確保

情報調整班

- 日報・報道全般

戦略的検討班

- 中長期的な戦略の検討
- 感染対策に係る各種企画・実施 (すすきの地区含む)

情報システム班

- 感染データの検証・統計分析
- システムの構築・運用

連絡調整班 (業務調整係)

- 業務調整等

ワクチン接種

ワクチン接種担当部

- ワクチン接種に係る各種調整等

検査

患者搬送班

- 移動手段のない疑い患者等の搬送調整・手配 (接触者外来、PCRセンター)

検査受付調整班

- 医療機関・#7119患者からの検査依頼受付 (患者情報の聞き取り、医師への相談)
- ※発熱外来の案内
- 検体採取場所・方法の調整 (接触者外来、PCRセンター、唾液キット)
- 検査結果の陰性通知 (一部外来)

検体搬送調整班

<検体搬送調整チーム>

- 検体搬送先、スケジュールの調整
- 検体搬送の手配
- 検査結果の通知 (陰性)

<自己検体採取チーム>

- 自己検体採取キットの発送・回収
- 検査結果の通知 (陰性)

<クラスター対応チーム>

- クラスター施設への自己検体採取キットの発送・回収

<すすきのPCR検査チーム>

- すすきの地区の店舗型検査受付

札幌市衛生研究所 民間検査機関等

医療機関 (発熱外来等)

PCRセンター班

- 第1・2・3PCR検査センターの現場運営
- すすきの臨時PCR検査センターの現場運営
- 対象者の予約受付
- 検査結果の通知 (陰性)

データ構築班

- 新規陽性者データの一括入力

入院・宿泊療養・自宅療養

患者搬送班

- 陽性患者の搬送調整・手配 (医療機関、宿泊療養施設)
- 搬送に係る車両、運転手等の管理

医療提供体制構築班

- 重症・中等症者の受入体制の確保
- 医療資材の確保・医療機関への提供
- 入院待機STの設置調整、運営

入院受入医療機関

診療施設担当部

- 第2入院待機ステーションの現場運営

患者対応・入院調整班

<入院調整チーム>

- 受け入れ可能病院及び病床の確認
- 療養判定 (入院、宿泊療養、自宅療養)
- 患者と病院のマッチング
- 病院との連絡調整
- 患者の状態変化等による入院・転院調整
- 対象者の健康観察

<患者対応・告知チーム>

- 入院又は宿泊療養決定後の患者への連絡

患者対応・入院調整班

<陽性探知チーム>

- 新規陽性者の探知

<情報管理チーム>

- 厚労省法定報告 (HER-SYS) 等

<患者対応・告知チーム>

- 新規陽性者への告知
- 患者情報の収集と優先度の確認

在宅医療チーム

- 自宅待機・療養者への往診等調整

宿泊療養・自宅療養班

<宿泊療養チーム>

- 宿泊療養施設の運営
- 入所・搬送調整
- 入所者台帳管理
- 入所者の健康管理
- 医療従事者確保

<自宅療養チーム>

- 自宅療養者台帳管理
- 自宅療養者の健康管理
- 自宅療養者への配食サービス

疫学調査

患者調査班

- 陽性患者の行動調査
- 濃厚接触者の特定

健康観察班

- 濃厚接触者の健康観察

疫学調整班

- クラスター発生への対応 (陽性患者の行動調査・濃厚接触者の選定、施設への立入等)
- クラスター発生施設への支援

<病院・施設支援>

厚労省 (国立感染症研究所)

- 疫学調整班のクラスター対応支援 (疫学調査支援、感染管理支援等)

厚労省地域支援班 (DMAT)

- マネジメント支援、人的・物的資源調整
- その他運営に関する支援全般



第1波：令和2年2月

- 令和2年1月26日 海外からの観光客が1例目
 - さっぽろ雪まつり終了後に発症者増加傾向
国内外から202万人の観光客
→北海道内各地ばかりではなく熊本や千葉にも感染拡大
 - 北見の展示場、ライブハウスでのクラスター発生
 - 3月12日の9名が最多
-
- ▶ 令和2年2月28日より北海道独自の緊急事態宣言
小中学校の休校、週末の外出自粛
 - ▶ 感染症総合対策課で従来業務に加えて対応
-
- 中国、イタリアで感染急拡大





札教保第 304 号

令和 2 年（2020 年） 2 月 26 日

学校長 様

教育長

市立小中学校における臨時休業の実施について（通知）

新型コロナウイルス感染症の患者が学校において発生した場合の臨時休業の取扱いについては、「新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業等の取扱いについて」（令和 2 年 2 月 25 日付け札教保第 302 号）によりお知らせしたところです。

このたび、北海道における感染の流行を鑑み、これを早期に終息させるため、集団による感染の拡大を防止することが極めて重要であり、徹底した対策を講じていく必要があることを踏まえ、現時点で、児童生徒の体力の保持・回復や教職員自らの健康管理を行うとともに、各学校における対策の充実を図ることを目的に下記のとおり札幌市立のすべての小学校、中学校（開成中等教育学校前期課程を含む）を休校とすることといたしますのでお知らせいたします。

記

- 1 令和 2 年 2 月 28 日（金）から 3 月 6 日（金）までを臨時休業とする。

▶ 令和 2 年 2 月 26 日発出、
28 日より休校開始

▶ 文部科学相から
日本全国の小中学校の休校
令和 2 年 2 月 28 日発出

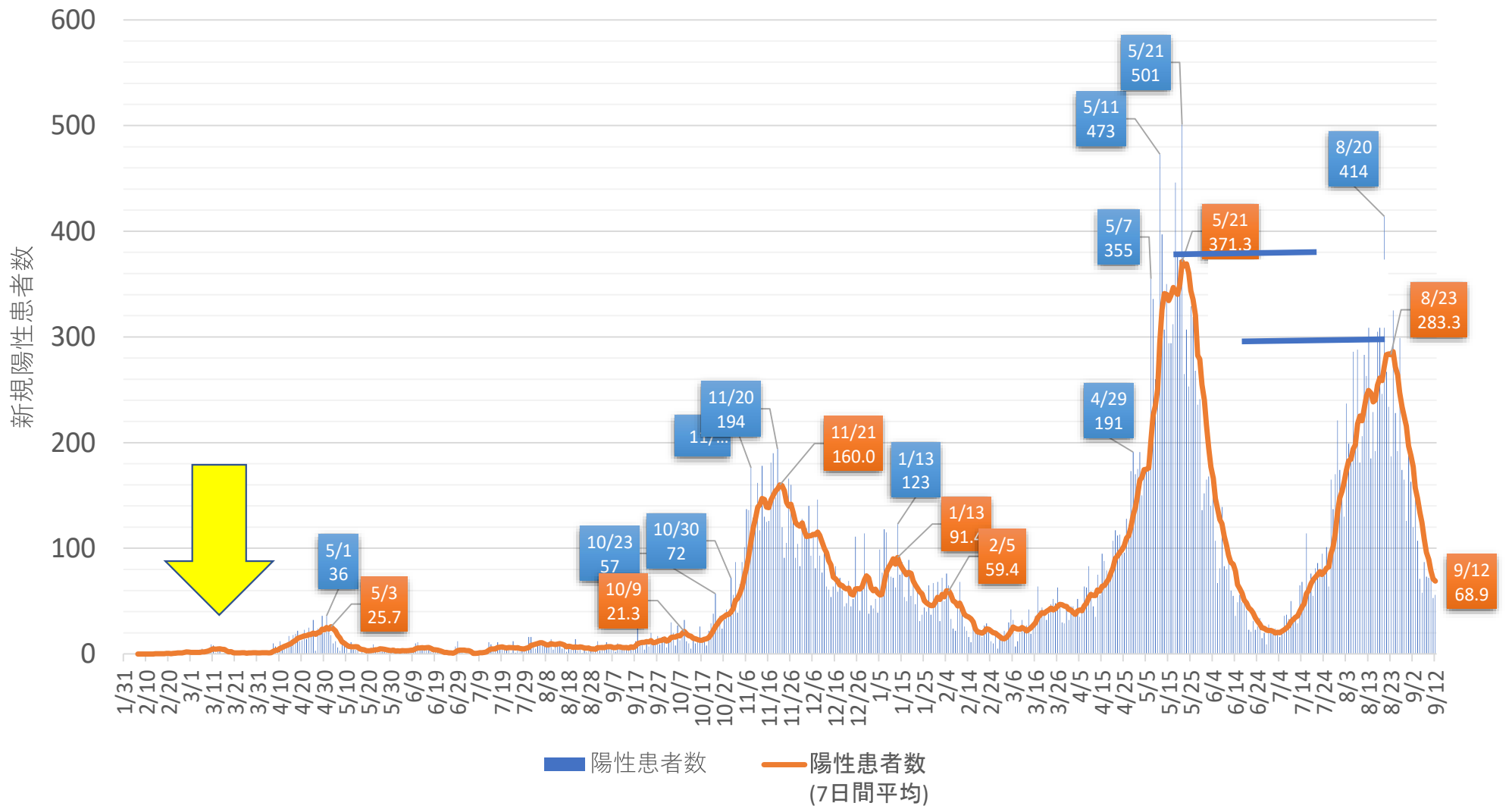


札幌市保健所医療対策室



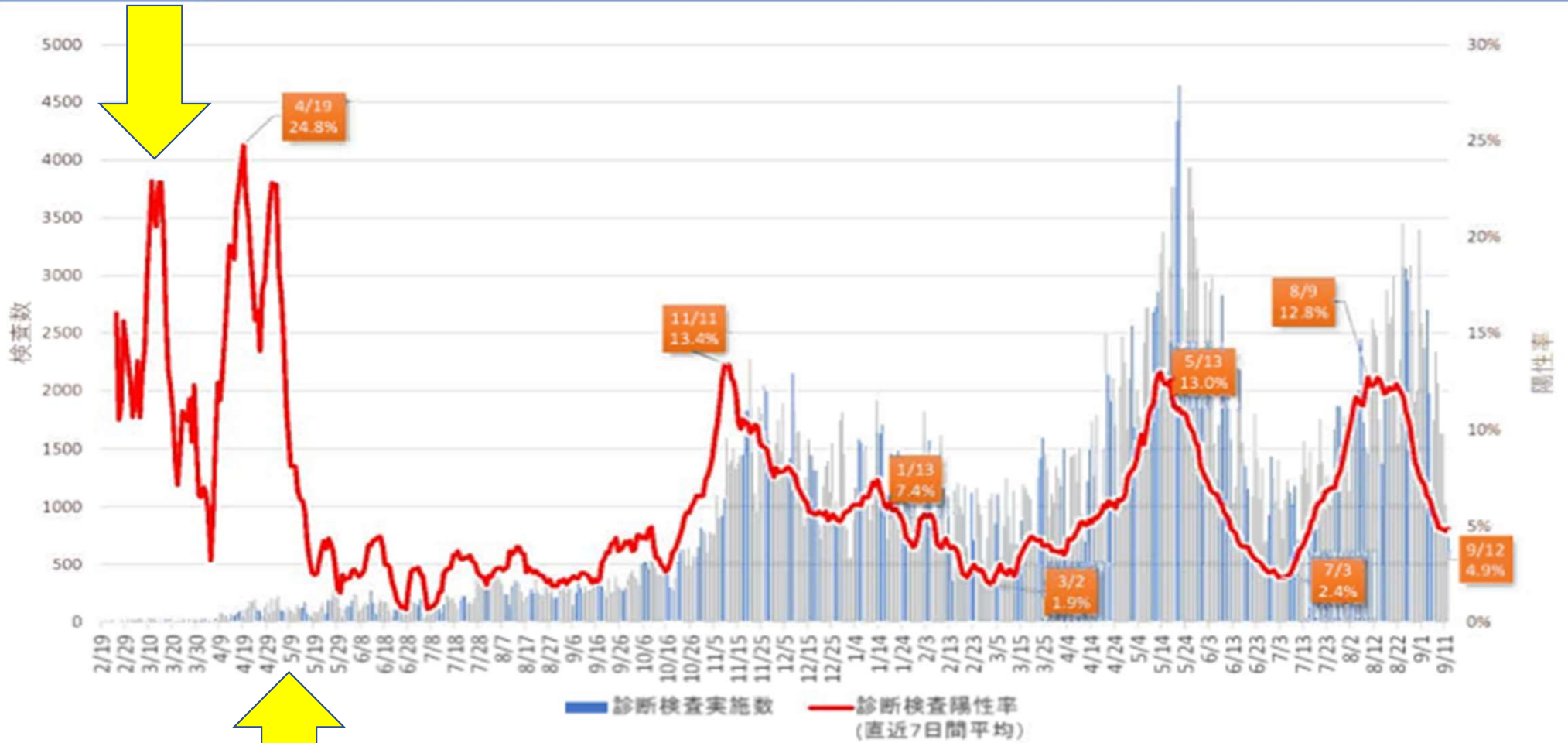
グラフ

新規陽性者数の推移（陽性確定日ベース）



グラフ

検査数、陽性率

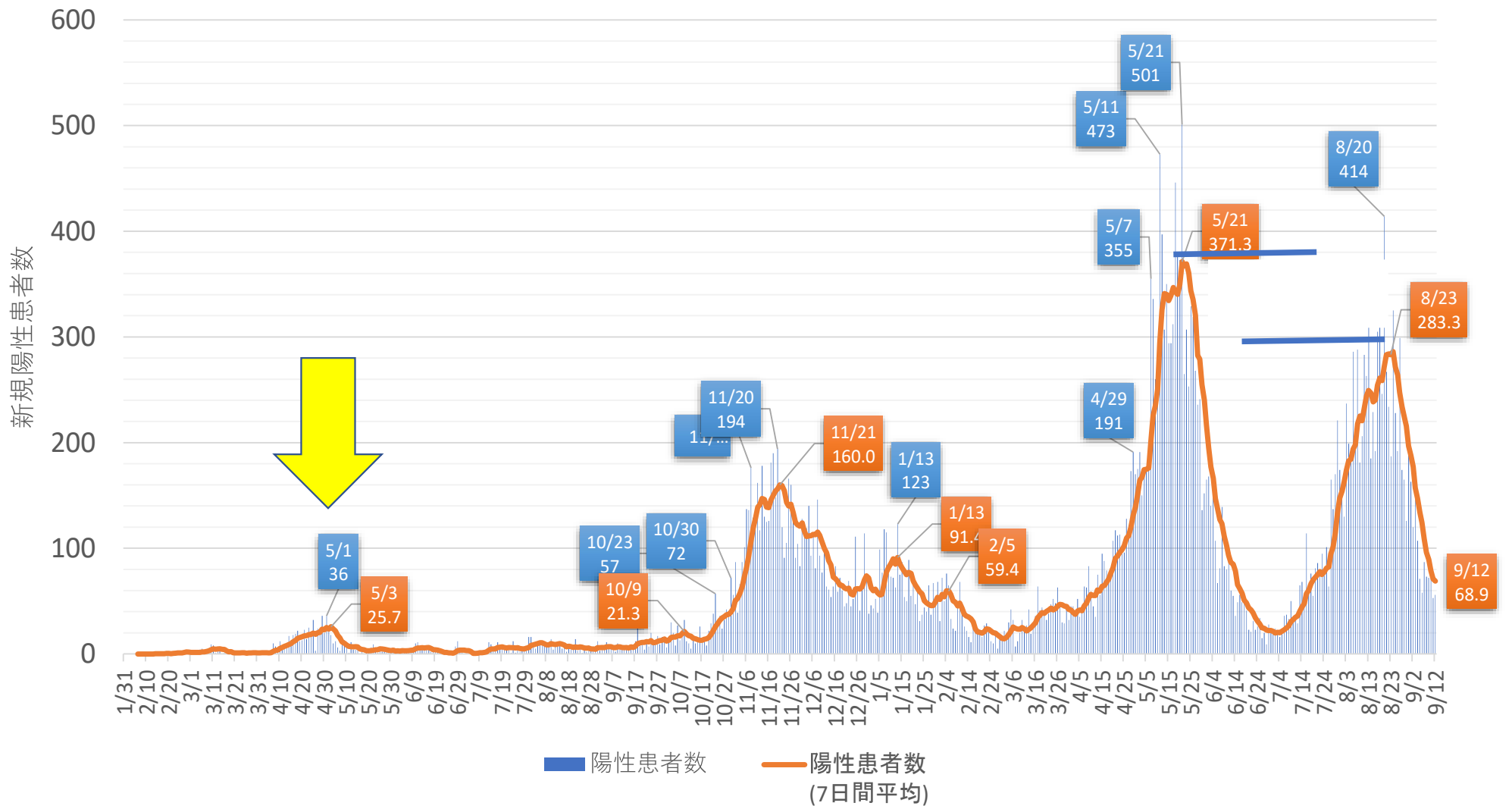


第2波：令和2年5月

- 1波以降陽性者は断続的にみられていた。4月より連日10人を超えるようになり中旬以降は20人前後に漸増、下旬にかけて急増し、5月1日の36名が最多
 - 4月20日前後に病院の大規模クラスターが2件、介護老人施設の大規模クラスター1件発生
 - 医療の逼迫と検査陽性率の再上昇（退院基準のみなおし）
- ▶ 4月26日「新型コロナウイルス感染症対策本部医療対策室」の立ち上げ
- アメリカで感染拡大が続いていた

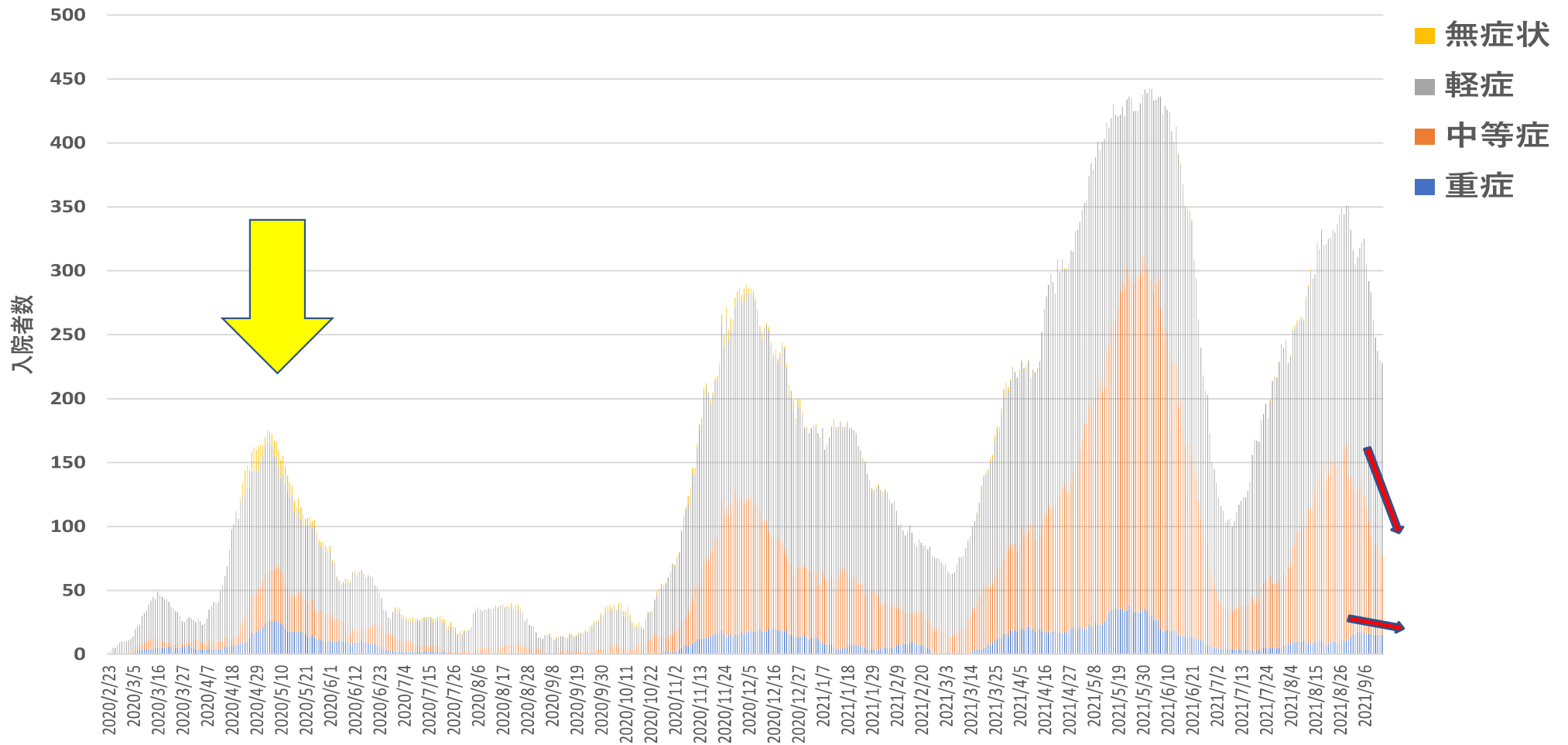
グラフ

新規陽性者数の推移（陽性確定日ベース）



グラフ

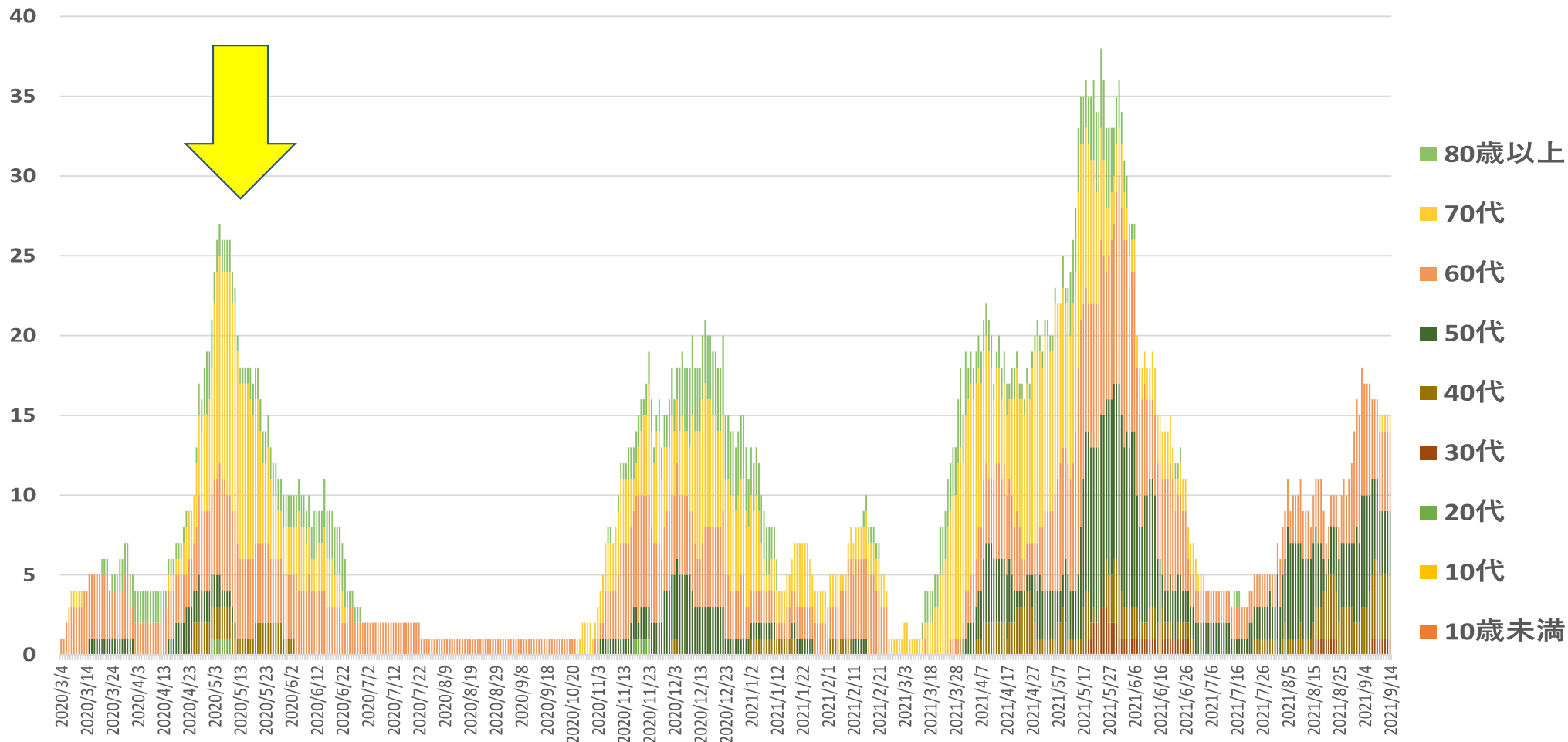
入院者数（日別）



※医療機関に入院中の患者の重症度別に集計（宿泊療養施設の入所者は含まない）

グラフ

入院者数（重症者：年齢別）



※医療機関に入院中の患者のうち、重症者について年齢別に集計（宿泊療養施設の入所者は含まない）



札幌市新型コロナウイルス感染症対策本部医療対策室

【総括班】

（総務班）

・市対策本部会議との調整、一般相談窓口の運営、その他庶務的業務に関すること

（情報調整班）

・日報、広報全般に関すること

（連絡調整班）

・医療対策室内の情報共有化、事業管理等に関すること

【調整班】

（検査受付調整班）

・PCR検査の依頼の受理・調整等に関すること

（検体搬送調整班）

・医療機関等との検体搬送の調整に関すること

（患者調査班）

・感染経路の疫学調査に関すること

（健康調査班）

・濃厚接触者の健康観察に関すること

（データセンター）

・感染データの検証・統計分析、システムの構築等に関すること

（PCRセンター）

・PCRセンターの運営に関すること

【医療調整班】

＜札幌大支援チーム＞

（医療調整総括班）（入院調整班）（患者搬送班）

＜札幌市＞

（患者対応班）

・患者情報の把握、搬送の優先順位に関すること

（入院調整班）

・入院患者の調整に関すること

（患者搬送班）

・病院への患者搬送の手配に関すること

【医療体制整備班】

（医療提供体制構築班）

・医療提供体制の構築（機能分担整理・空床補償制度等）に関すること

【宿泊療養調整班】

（宿泊療養調整班）

・宿泊療養施設の患者調整に関すること

※危機管理対策室

（宿泊療養増設管理班）

・宿泊療養施設の増設、管理に関すること



介護老人保健施設「茨戸アカシアハイツ」における 新型コロナウイルス感染症集団発生に係る検証報告書

令和2年（2020年）10月
札幌市保健福祉局

はじめに

世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染者が、札幌市内で初めて確認されたのは令和2年2月14日でした。北海道で第1波と呼ばれる市内での感染拡大は、3月上旬にピークに達した後、3月末にかけて一旦収束するかに見えました。

介護老人保健施設「茨戸アカシアハイツ」に隣接する「茨戸デイケアセンター」の利用者が発症したのは4月9日で、その後「茨戸アカシアハイツ」内で感染は潜行し拡大していきました。茨戸アカシアハイツでの集団感染を探知した4月下旬にはすでに多くの入所者が感染し、最終的に入所者71名、職員21名が感染し、関連して17名の入所者がお亡くなりになるという、大きな集団感染事案となりました。同時期、全国的にも感染は拡大し、札幌市においても、5月4日には患者数352名、5月7日には入院者数197名となる、まさに第2波のピークを迎えていました。

茨戸アカシアハイツでの集団感染事案におきましては、これまでに、施設に対する札幌市の支援の在り方や、介護が必要な方への医療提供などにつきまして、本当に多くの方々から、ご意見をいただきました。

札幌市では、**今回の集団感染事案の経過や対応を整理し、検証を行うことで、今後の発生予防と早期探知・早期終息のため、また施設等の入所者、職員を守るため、関係機関や関係団体とも連携し、本報告書に示した感染防止対策等をこれまで以上に進めていくこととしております。**

なお、本事案への対応にあたりまして、厚生労働省、北海道並びに札幌医科大学、北海道大学、札幌市医師会、各医療機関、関係団体等から多数の御支援と御協力をいただきましたことに心より感謝を申し上げます。

https://www.city.sapporo.jp/gikai/html/documents/05_021007_kennsyoun.pdf



札幌市保健所医療対策室





第3波：令和2年11月

全国他都市で見られていた
8月の感染ピークはみられなかった

に至るまでの間に、、、

- 6月：現地対策本部の機能を充実させ、施設病院のクラスター対応の徹底
- 7月：昼カラオケのクラスター発生 陽性者数は減少傾向だが、後半より接待を伴う飲食店の陽性者の増加、特設の検査場を設ける等対策開始。感染防止のために積極的に関わっていく場を設けていく。
- 8月：バイト等を介しての専門学校生や大学生への広がりがあるが学校での拡大はほとんど見られず。
- 9月：市中感染が広がり始め、コールセンターなど会社等に徐々に感染が広がる。接待をともなう飲食店の従業員同士が集まるような場所を媒介して店舗間への拡大あり。シルバーウィークの人流増加あり。
- 10月：リンク不明者が増え、クラスターが増え、感染爆発への前兆あり



- 相談窓口の強化
- 外注検査の増強（大学との連携）
- 宿泊療養の増強（北海道と大学との連携）
- 医療者の確保・透析患者対応の検討
- 自宅療養のマニュアルの作成・オンライン診療体制
- 介護を要する陽性者の受け入れ医療機関、後方ベッドの確保
- インフル流行も見据えて発熱外来の準備（医師会との連携）
- 搬送手段の確保
- 疫学調査体制の強化
- 現地対策本部を基盤としたクラスター対応の体系化
- 医療対策室内の連携の強化
- 陽性者情報のとりまとめと分析（大学、企業との連携）

第3波：令和2年11月

- 11月に受け入れ医療機関でのクラスターが相次ぎ医療の早期の逼迫を認めた。
- 感染者数が急増し、2ヶ月間にわたり高いレベルでの感染者数が継続した
- n-CPAPの有効性が明らかとなり気管内挿管を要しない中等症が増加したが、重症者数は2波とほぼ同じレベル
- 陽性者が増えたが、患者層が広くなり宿泊療養者が増加。自宅での待機者も見られるようになった。
- 施設や病院のクラスターが増え、対応件数は29件、現地対策本部も9件必要とした。

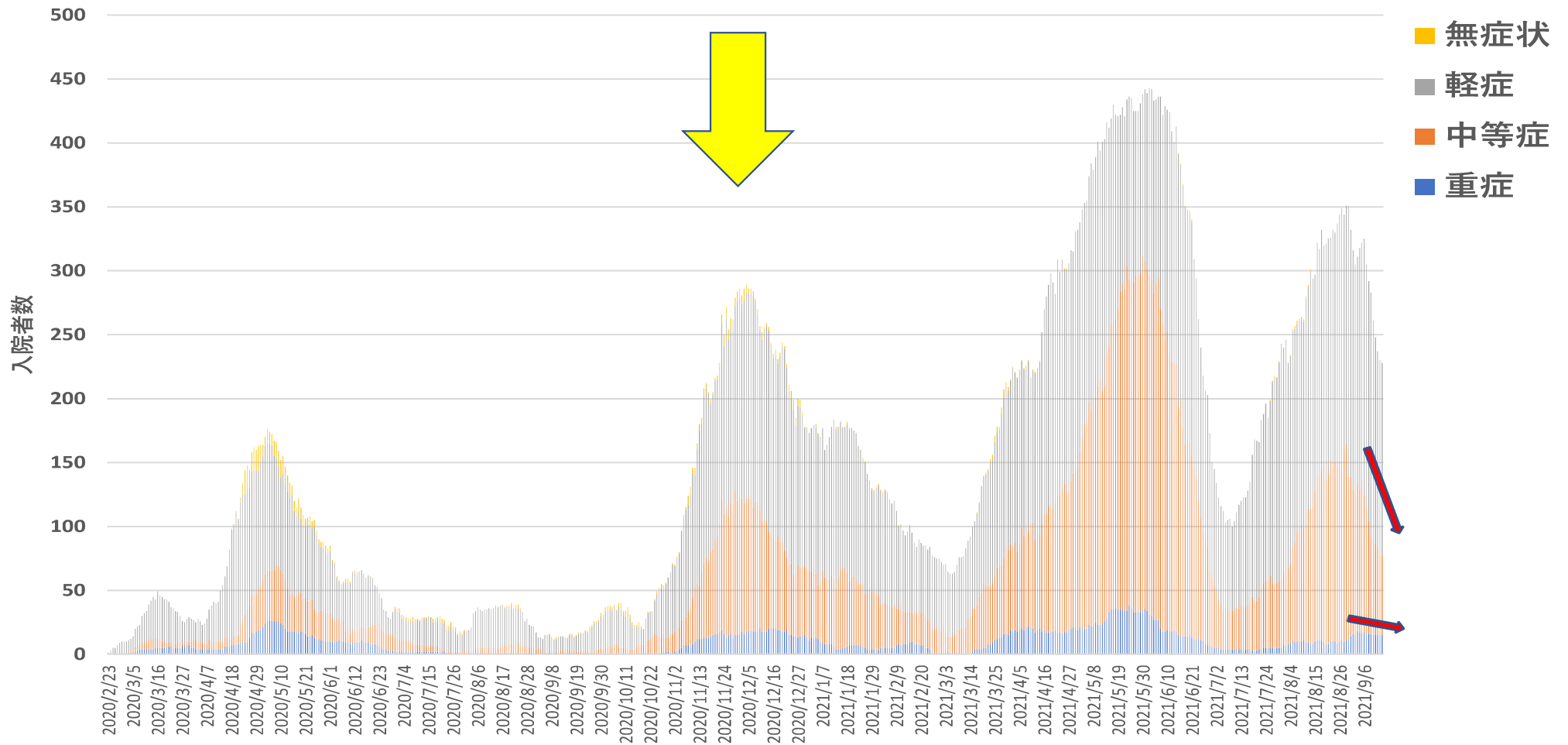
グラフ

新規陽性者数の推移（陽性確定日ベース）



グラフ

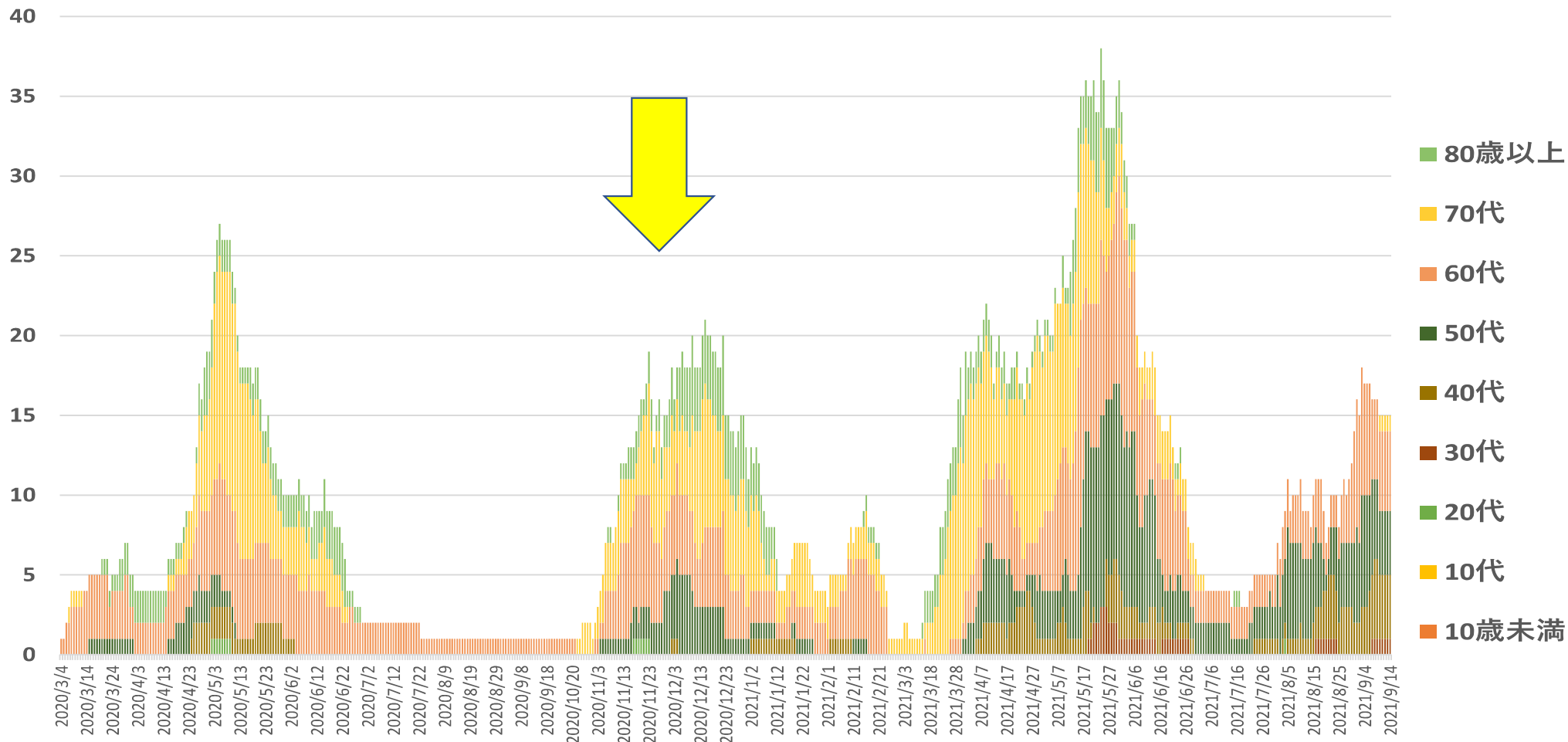
入院者数（日別）



※医療機関に入院中の患者の重症度別に集計（宿泊療養施設の入所者は含まない）

グラフ

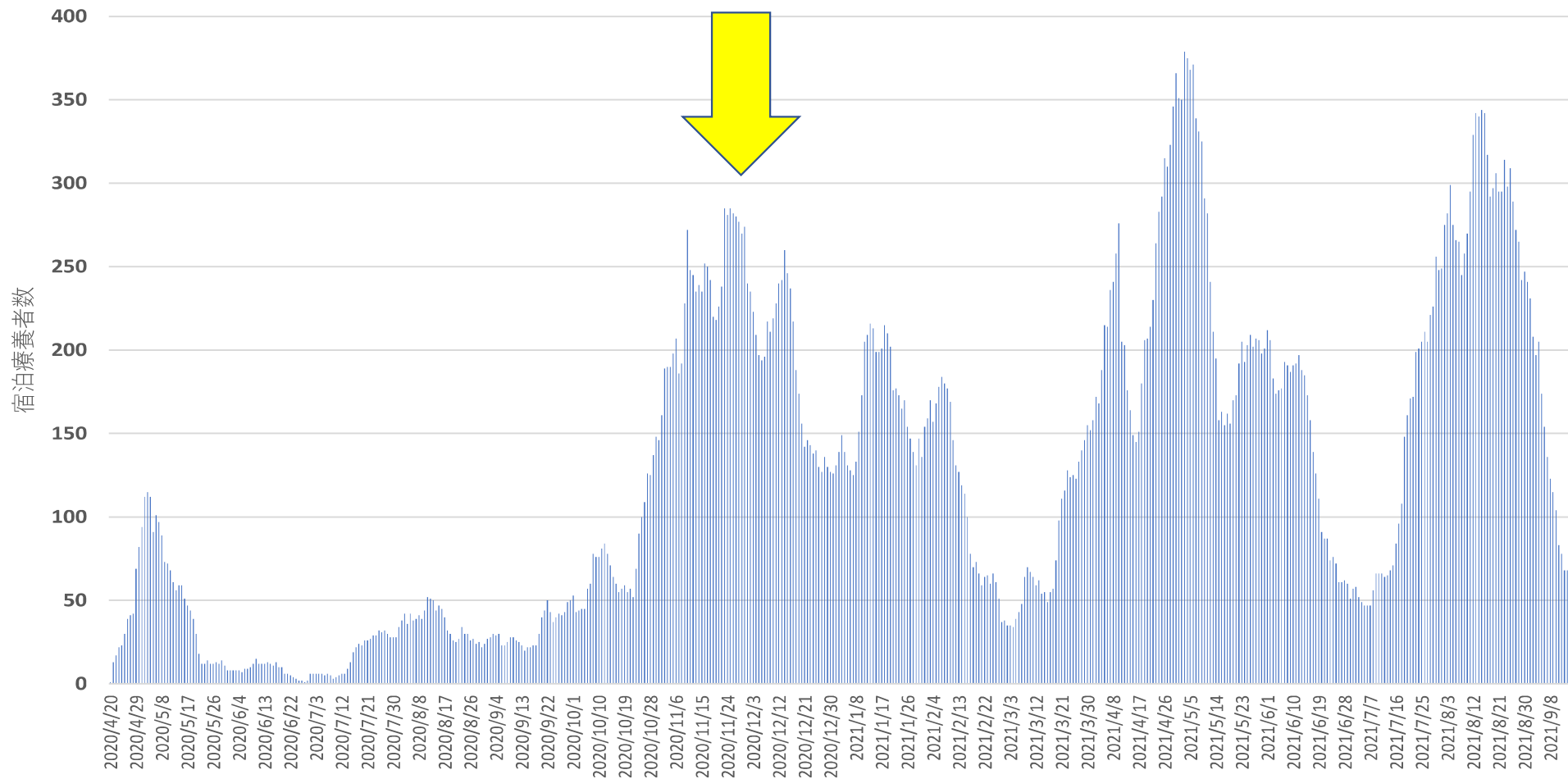
入院者数（重症者：年齢別）



※医療機関に入院中の患者のうち、重症者について年齢別に集計（宿泊療養施設の入所者は含まない）

グラフ

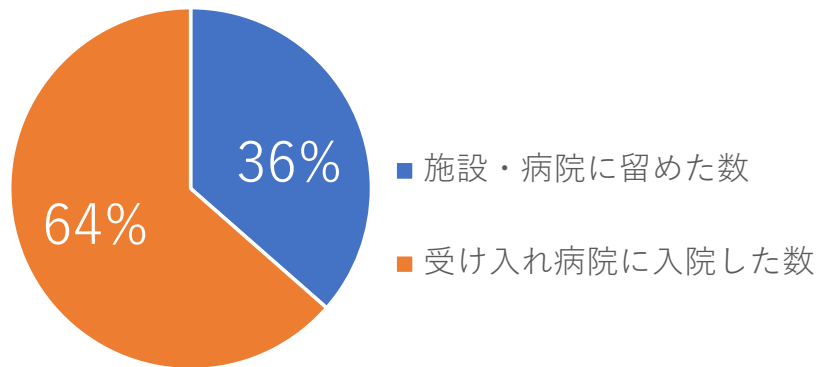
宿泊療養者数（日別）



※宿泊療養施設に入所中の患者数を集計



- ▶ 10月 28日 ステージ2
11月 7日 ステージ3
11月17日 警戒ステージ4相当
- ▶ DMAT、国立感染症研究所、全国自治体看護師など全国からの支援を受けての対応
- ▶ 医療機関にむけて「緊急要請事項」を依頼
- ▶ 施設での陽性者も、施設で医療をうけて必要なタイミングで入院。



施設に留めた入院適応患者	116
病院に留めた入院適応患者	614
施設からの入院	245
病院からの入院	256
自宅からの入院	592
ホテルからの入院	180
合計	2003

緊急要請事項

札幌市長 秋元 克広
(一社) 札幌市医師会 会長 松家 治道
(特非) 北海道病院協会 理事長 中村 博彦
(公社) 全日本病院協会 北海道支部 支部長 徳田 禎久
(一社) 日本病院会 北海道ブロック支部 支部長 田中 繁道
(一社) 日本社会医療法人協議会 北海道支部 支部長 西澤 寛俊

新型コロナウイルス感染症患者の患者増加に伴い、札幌市内における陽性患者等の入院受入体制が危機的な状況にあることから、医療機関の皆様方に、以下のとおり、緊急要請を行います。

1. 自院における陽性患者発生時の入院体制の確保

自院において、入院が必要な患者の陽性が判明した場合に備え、継続して入院対応が可能な体制を整備すること。

2. 入院受入体制のさらなる拡充

医療機関全体で新型コロナウイルス感染症対策を支える必要があることから、各医療機関において、以下のいずれかの役割を担うことが可能となるよう準備すること。

- ① 陽性患者の入院受入（特に要介護等の高齢患者の入院受入）
- ② 退院基準を満たした高齢者等の入院受入（後方支援病院）
- ③ 入院受入病院やクラスター発生施設等に対する人的支援

3. 発熱患者等の救急対応

発熱患者や高齢者施設の入居者等について、救急搬送の受入までに時間を要する事例が多発していることから、受入拒否をすることなく、適切に受入対応を行うこと。

令和2年
12月4日

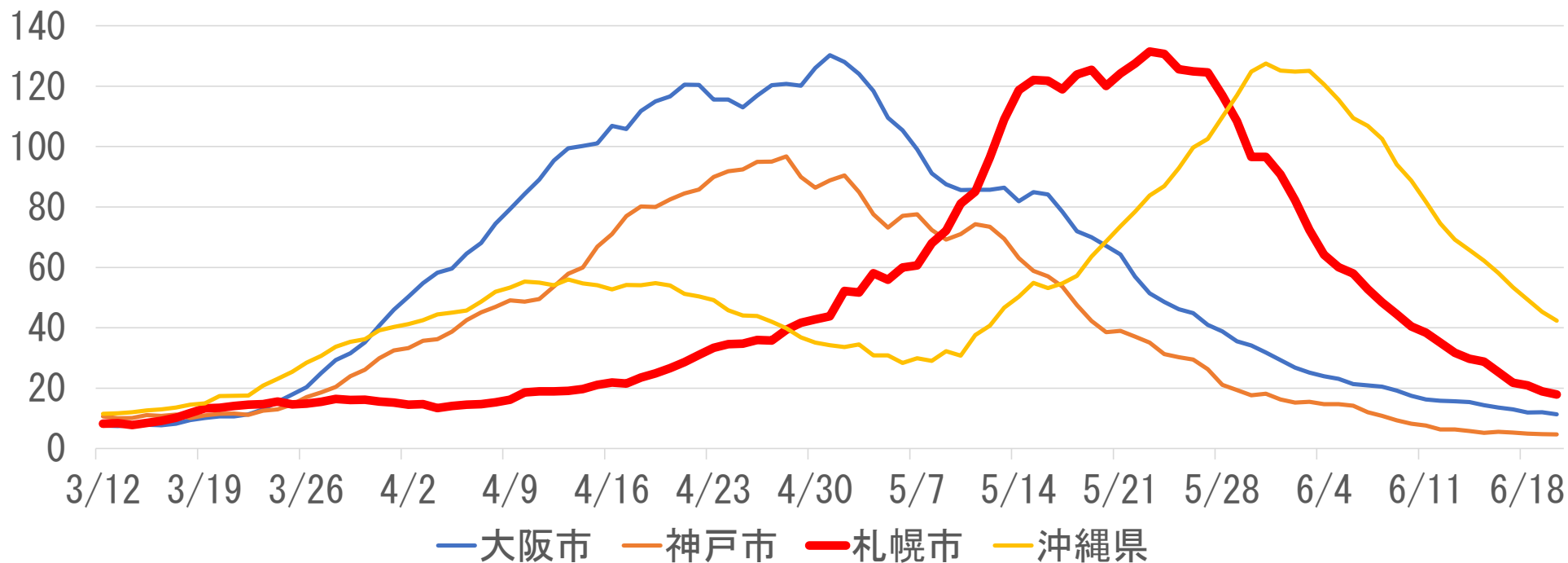
第3波のあと、4波にそなえて

- ワクチン体制の整備開始
- 変異株への対応
- 検査体制のさらなる拡充
- 入院医療機関のさらなる確保
- 自宅療養や施設内への医療導入のための医療者への講習会
- クラスタによる職員不足への職員派遣システムの構築
- クラスタ対応チームの結成
- 感染拡大防止のための講習会（施設、病院）
- 患者数増減に対応しうる医療対策室の流動的な人員配置



第4波：令和3年5月

- アルファ株の探知は3月上旬だったが、陽性者全員の変異株検査と厳密な疫学調査にてリンクを追っていき拡大のスピードを抑えていたが、4月下旬には、押さえ切れなくなり一気に陽性者増加



大阪の状況とその対応へのタイムリーなアドバイスと支援

感染者の急増により重症・中等症患者の増加

自宅入院待機者の増加

クラスター発生の増加

中等症病院での重症患者の診療

- SpO2モニタの陽性者への配布
- 告知、健康観察体制の強化
- 救急車の搬送先としての「救護所」としての酸素ステーション設置
- 自宅への電話診療、往診体制の強化
- 施設への診療体制の強化
- 病院の機能分担



第4波：令和3年5月

- 医療が逼迫し、医療が必要な人を適切に医療につなげることを目標にして対応を行った
- 感染者数の増加率はものすごく急だったが、減少も早かった。
- 救護所としての「入院待機ステーション」で酸素投与を開始した
- 在宅診療やオンライン診療を組織的に開始した
- クラスターの対応件数は65件と非常に多かった。小規模の現地支援班で1施設を対応した。クラスター対策は遅滞なく行うことができ、施設と医療のマッチングも84.2%の施設で行うことができ、施設内に残された陽性者に対しステロイド投与や酸素投与を適切なタイミングで行うことができた。
- アルファ株になってから、学校、幼稚園、保育園のクラスターが増加した
- ワクチンの効果がみられ、病院のクラスターは6月以降見られなかった



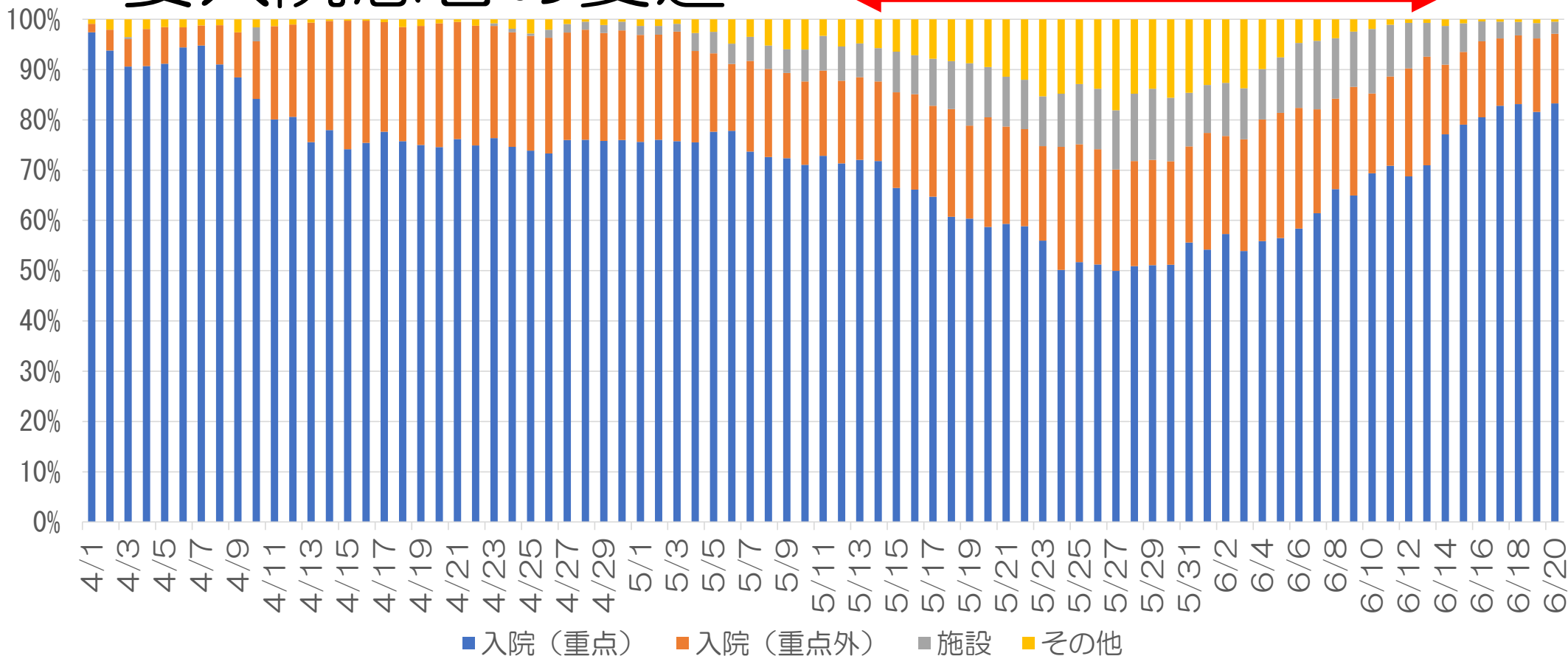
グラフ

新規陽性者数の推移（陽性確定日ベース）

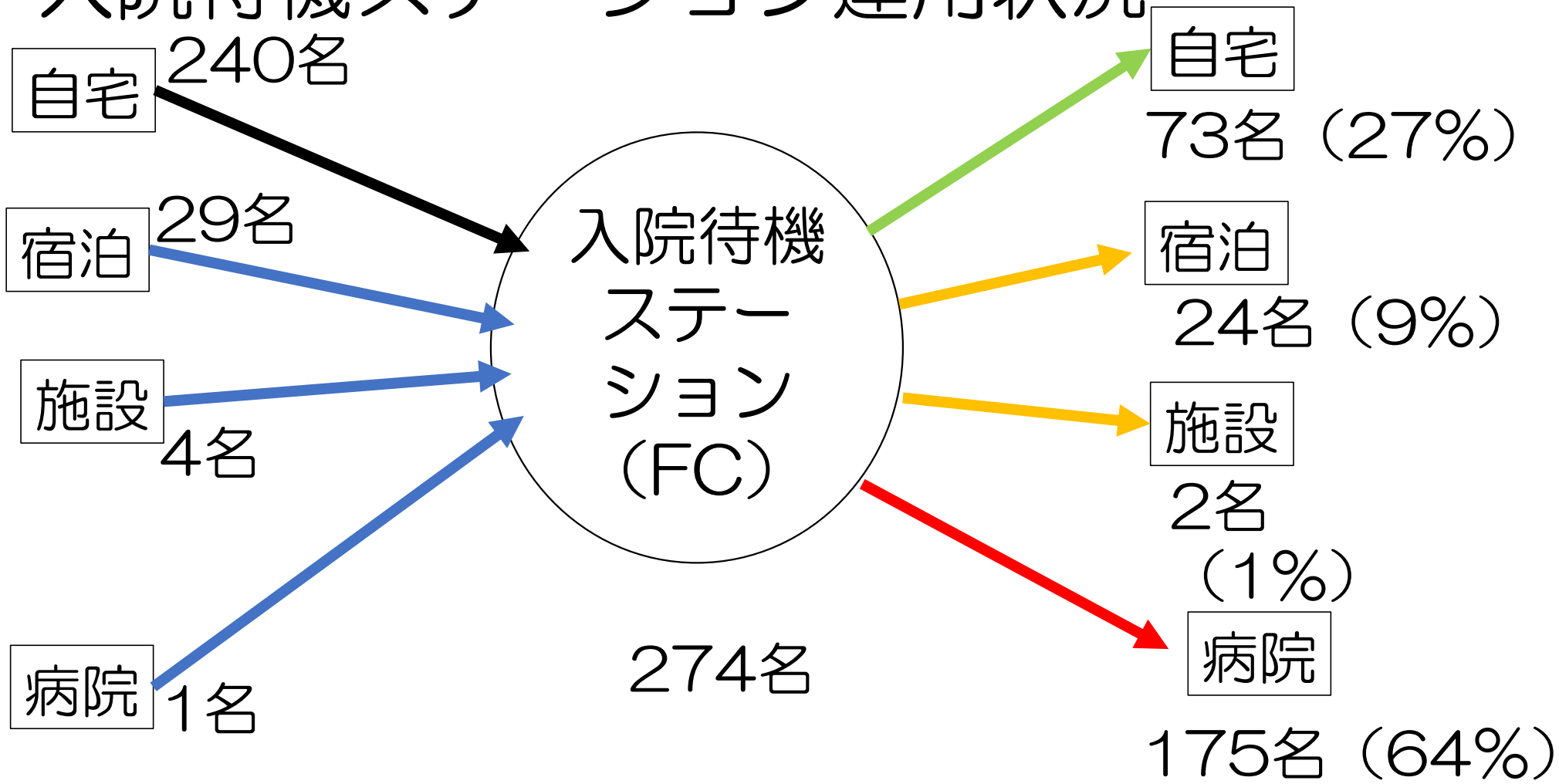


要入院患者の変遷

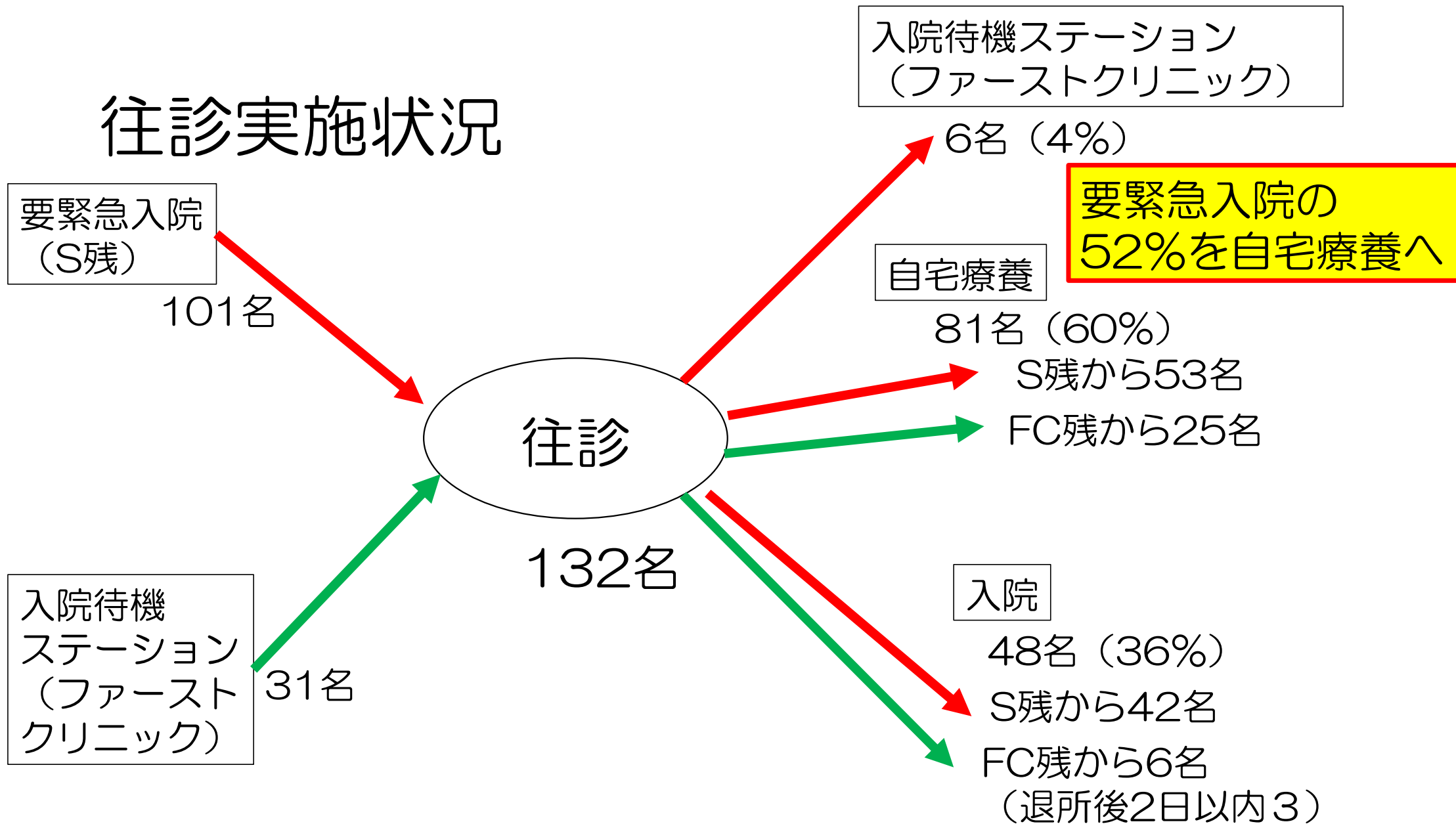
要緊急入院だが搬送不可の人あり：5月12日～6月15日
その他 9%



入院待機ステーション運用状況



往診実施状況

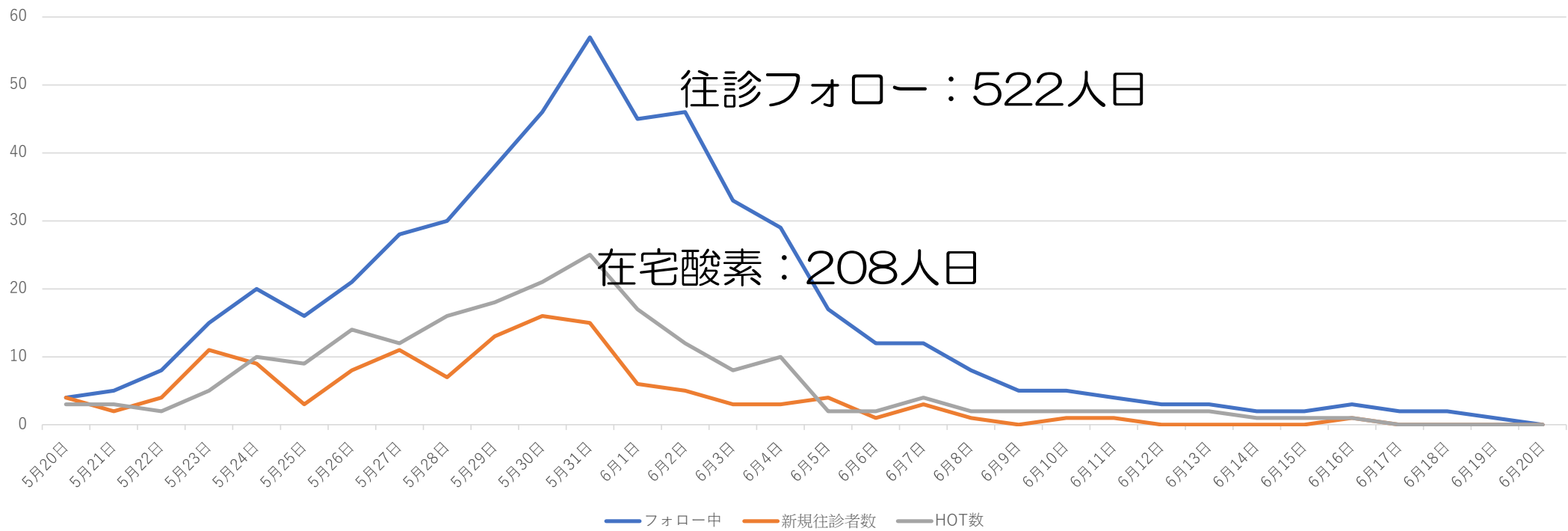


往診結果

- 診療種別
 - 往診実施70名、電話診療＋訪問看護のみ2人、電話診療のみ60人
 - 対応のべ600回、往診95回、電話診療446回、訪問看護29回
- 要緊急入院（S）の状況
 - 1日未満103名（79%、うち入院34名、FC5名、自宅64名）
 - 1日以上29名（21%、うち入院15名、FC1名、自宅13名）

往診対応者数推移（5月20日～6月20日）

	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日
フォロー中	4	5	8	15	20	16	21	28	30	38	46	57	45	46	33	29	17	12	12	8	5	5	4	3	3	2	2	3	2	2	1	0
新規往診者数	4	2	4	11	9	3	8	11	7	13	16	15	6	5	3	3	4	1	3	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
HOT数	3	3	2	5	10	9	14	12	16	18	21	25	17	12	8	10	2	2	4	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	0	0	



第4波のあと、5波にそなえて

- デルタ株への検査対応、PCR検査の多様化（訪問PCR検査）
- ワクチン接種率の上昇への取り組み（ワクチンキャラバン隊）
- 陽性者急増に対する告知・健康観察体制の強化
- 機能分担できる入院体制の強化
（妊婦、小児、透析、脳神経外科、精神科）
- 往診、電話診療医を増やすための講習会
- コールセンターやデパ地下への感染拡大防止のための現地訪問
- 感染拡大防止のための講習会（施設、病院）
- 患者数増減に対応しうる医療対策室の流動的な人員配置

第5波：令和3年8月

- デルタ株 1 例目は6月下旬に覚知
 - 8月上旬にはオリンピックマラソンも控えている状況
 - 暑さが厳しくなく窓を開けての換気ができる季節
 - 往診、電話診療対応医療機関や訪問看護ステーションの増加
 - 5波への準備が早かったため、人員動員がタイムリーに
 - 検査への時間を短縮し、陽性者対応を迅速に行い、疫学で新規陽性者の拡大を抑え、陽性者の増加率を抑えていくことで病床の急激な逼迫を防ぎ、医療が必要な人を適切に医療につなげていくことが可能に
 - クラスターの規模が小さくなったが、ブレイクスルー例がみられるように
-
- ▶ ワクチンの効果があり、高齢者の陽性者数が減少
 - ▶ 緊急事態宣言の発動
 - ▶ マスコミでのコロナ報道の増加



札幌市危機管理対策室参与

岸田 直樹 先生 より



流行の最先端かつ最難関
人が集まる街、札幌市

第5波になって緊急事態宣言が発令されました

札幌市が作り上げた医療体制
保健所体制で立ち向かう集大成の波
という気持ちで抑え込みましょう



PCR検査センター

積極的疫学調査

発熱外来

入院待機ステーション

ワクチンチーム

各区コロナ対策室

こびまる

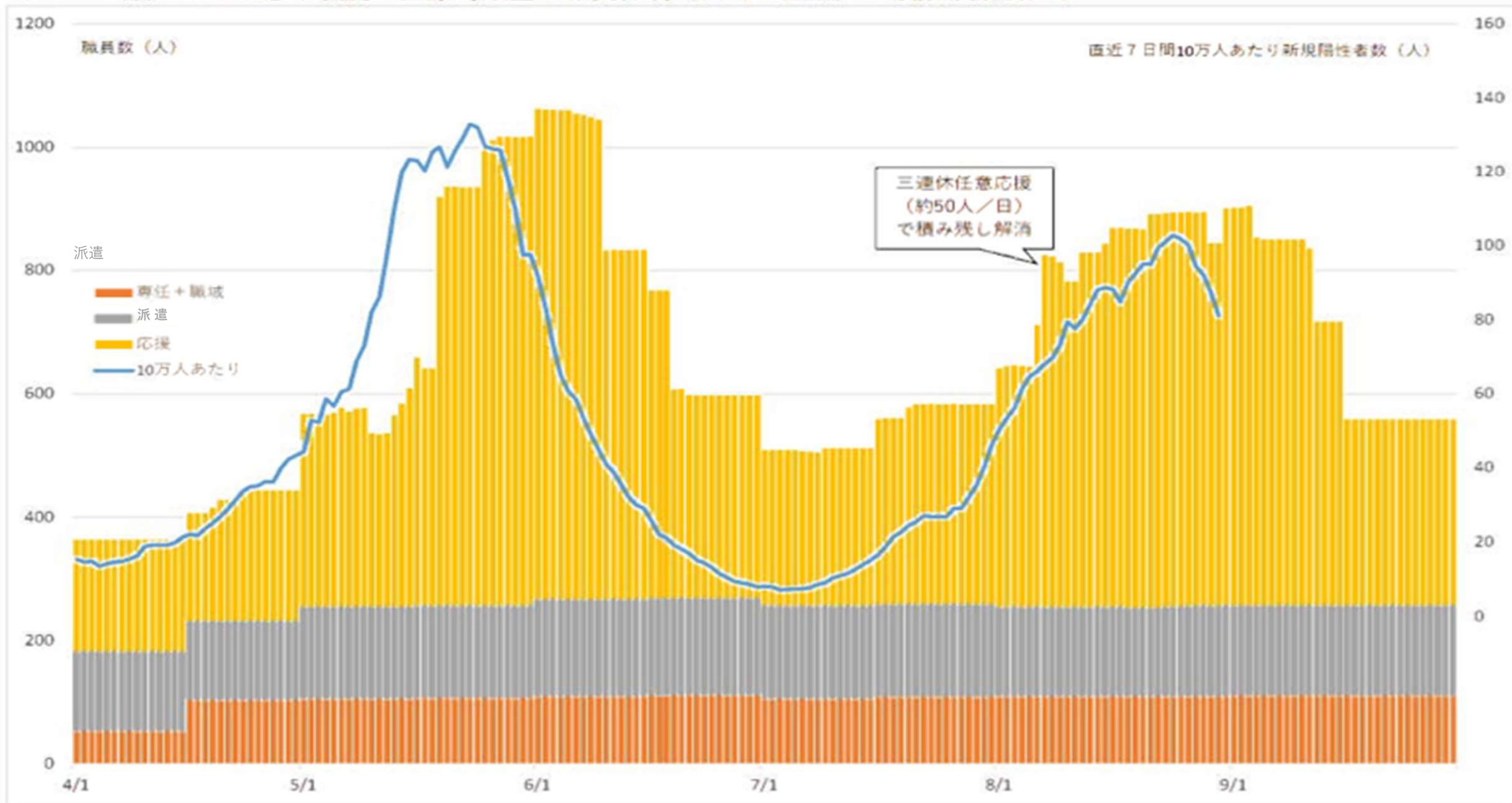
自宅療養診療所

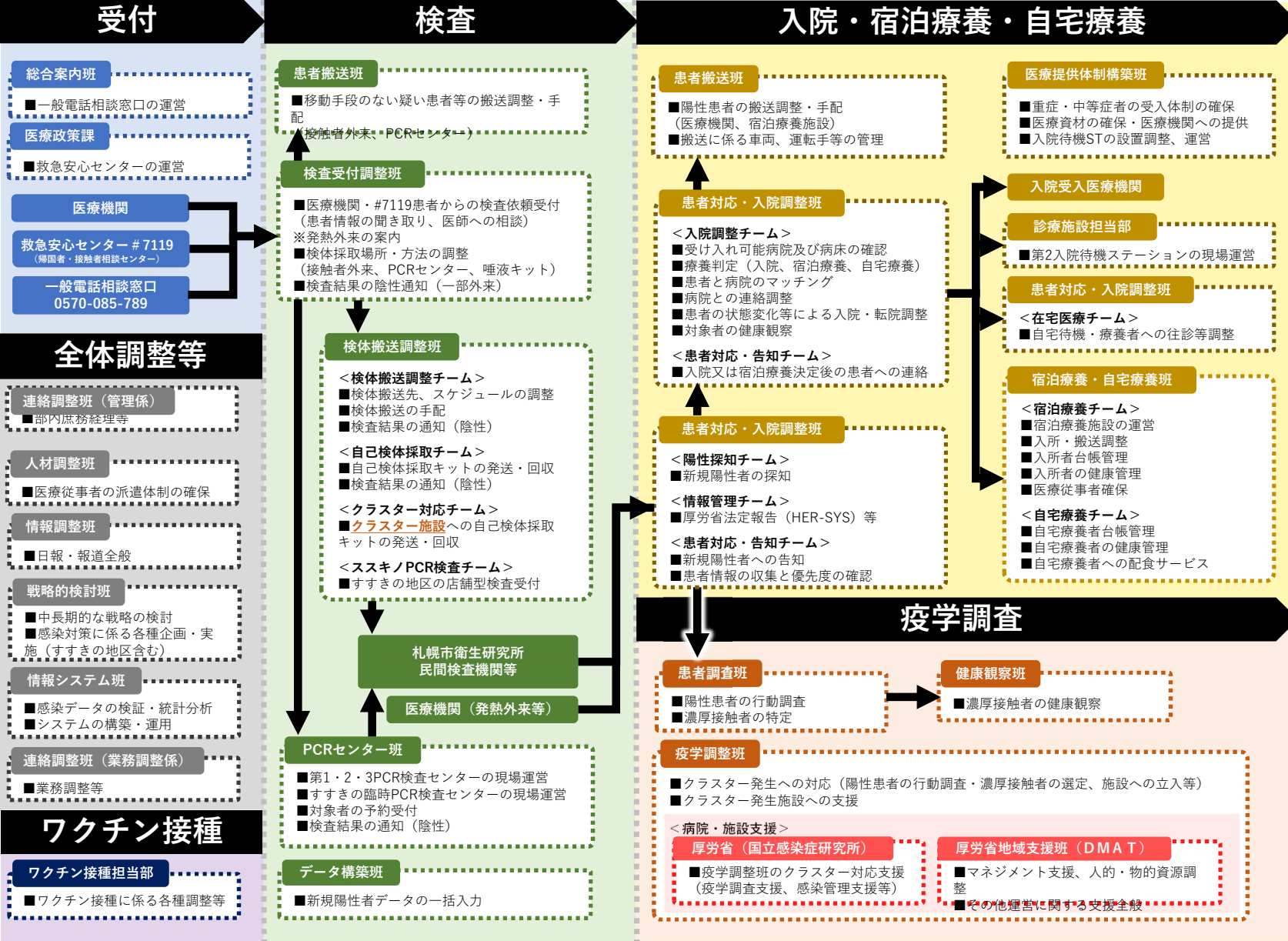
変異株検査体制

クラスター対応チーム

...

第4～5波における感染状況と医療対策室の職員体制（ワクチン担当部への応援職員数を除く）





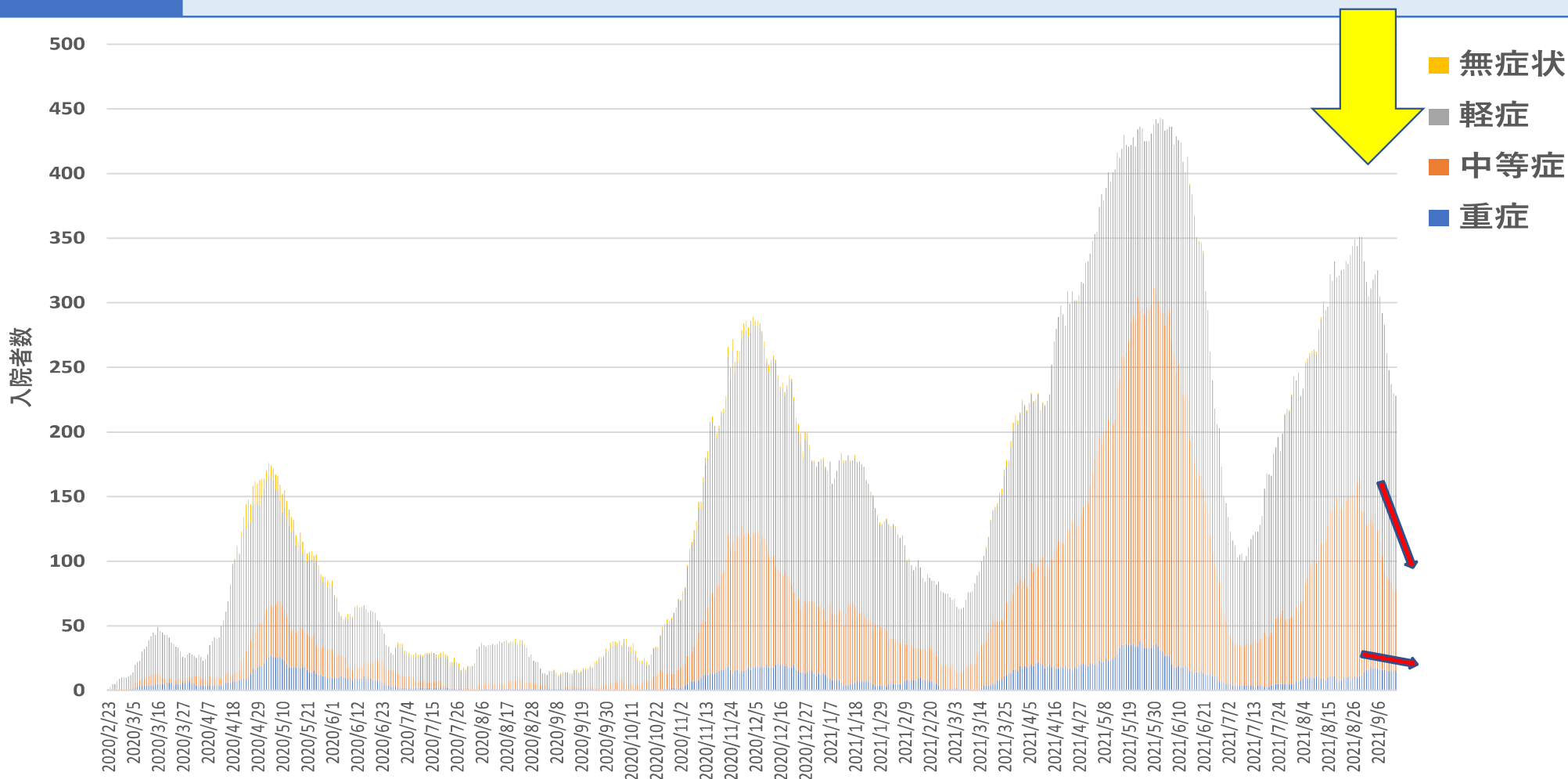
グラフ

新規陽性者数の推移（陽性確定日ベース）



グラフ

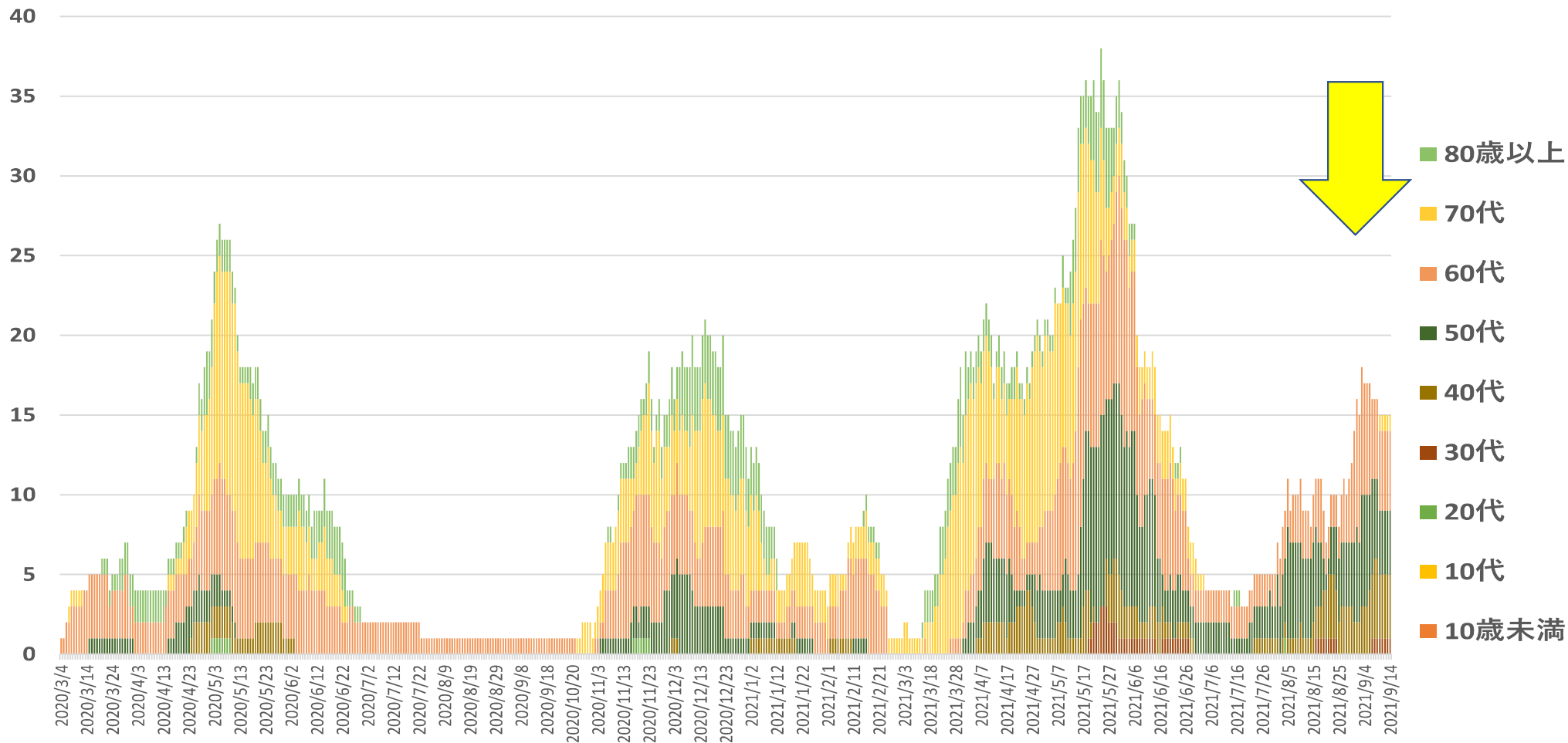
入院者数（日別）



※医療機関に入院中の患者の重症度別に集計（宿泊療養施設の入所者は含まない）

グラフ

入院者数（重症者：年齢別）



※医療機関に入院中の患者のうち、重症者について年齢別に集計（宿泊療養施設の入所者は含まない）



常勤職員に加え、
2～4週間で交代の応援職員700人
さらに10区に対策室を設置し
総勢1000人で
コロナに立ち向かう札幌市医療対策室の
連携のポイントは？




定例ミーティング

- 毎朝平日は 9:00~
土日祝日は10:00~
- 局長職、部長職、班の班長の課長職が参加、感染状況の全体把握と今後の方向性について、日々の課題を検討する
- オンラインにて、本庁部局、衛生研究所それぞれの班が参加。



市全体で情報共有を行う市長、副市長の参加する
ミーティングも、平日、毎日行われている



毎朝の定例ミーティング
その月ごとに大切なことを伝える
ミッション
情報を共有するシステム

P O I N T

5月新型コロナウイルス感染症対策方針 (ミッション)

救える命を確実に救うための重点方針

1 検査・疫学・療養のレベルを揃えて感染対策を進める

- 最速に検査が出来るよう運営する
- レベルを合わせて可能な限りの疫学調査を実施
- 入院、宿泊・自宅療養の判断を適切に行い、必要な人を確実に医療へアクセスさせる
- 病院や福祉施設等で感染者が発生した場合、施設等と協力して隔離を進め、
必要な人を医療へアクセスさせる

2 職員一丸となって新型コロナ対策を進める

- 日々の感染状況から医務監を中心として適切なレベルを定める
- 職員は相互に工夫・協力して、全体のレベルを維持できるよう努める
- 市役所一丸となって対策を進めるため、適切な応援を求めていく
- 職員は健康管理に努め、マスク着用、手指消毒、体調管理を徹底し、「黙食」を実践

9月新型コロナウイルス感染症対策方針 (ミッション)

◆第5波を完全に抑え込むための重点方針

1 ワクチン接種を着実に進める

- 個別医療機関においては、更なる接種能力の拡充につながるよう引き続き協力を求める
- 集団接種会場においては、ワクチンの供給量を見極めながら接種能力の拡充を図る
- 若年層向けの接種勧奨についての準備を進める

2 感染拡大と重症化を未然に防ぐ

- 積極的疫学調査の徹底により感染の拡大を阻止する。特に子どもたちの感染拡大に注意する
- ロナプリーブ投与によりハイリスク患者の重症化を積極的に予防する
- 入院待機ステーションの活用のほか、自宅療養者の往診や電話診療の強化により必要な人の早期医療アクセスを実現する

3 職員一丸となって新型コロナ対策を進める

- 職員は相互に工夫・協力して、全体のレベルを維持できるよう努める
- 現状の課題を分析し、解決方法を見出すことにより、今後の対策に確実に繋げる
- 職員は健康管理に努め、マスク着用、手指消毒、体調管理を徹底し、「黙食」を実践

応援職員一人一人が
何を目標に
取り組むかを示す





陽性者の情報を一元化して管理できる 支援ツールの開発

- 札幌市独自のツールで国のHER-SYSより前に作成、運用
- 柔軟な対応が非常にしやすく、住基システムとの連動で、ワクチン接種歴の管理もしやすくなった
- 「こびまる」という健康観察ツールも札幌医大と協力して開発し、宿泊療養だけでなく自宅療養の健康観察にも用いている

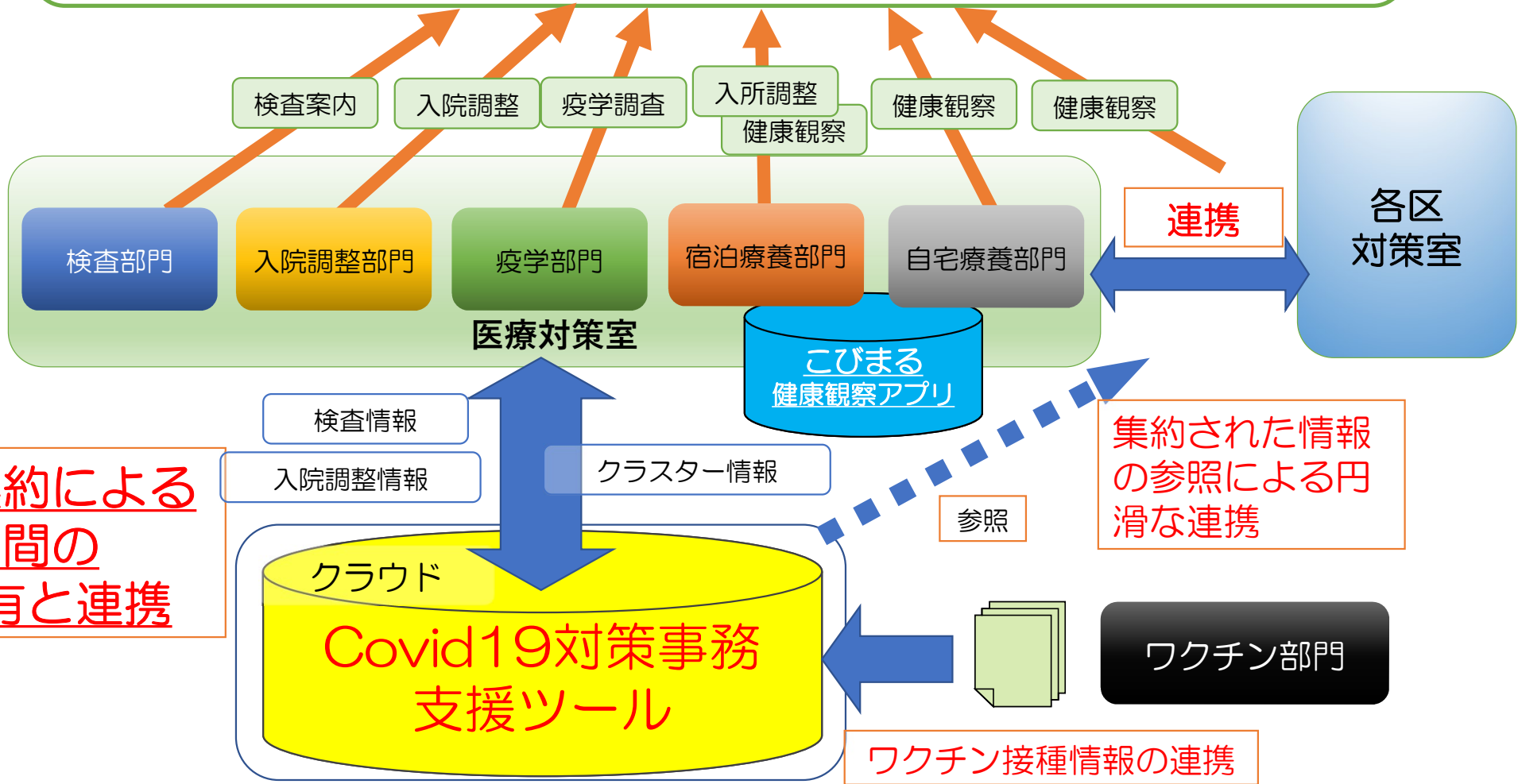
- 初期には各部門それぞれがデータをエクセル管理しており、データがつながらなかったが支援ツールでデータを一元化
- 市職員の中で、ITに詳しい人材を集中して情報システム班を立ち上げ、企業さんとともにシステムを開発運用。
- 運用管理を情報システム班が毎日しっかりと施行
- 市内10箇所の区役所に感染対策室を設ける際、撤収する際に業務の移行が円滑

▶札幌市の陽性者の方の状態を取りこぼさず管理



札幌市保健所医療対策室





**情報の集約による
部門間の
情報共有と連携**

**集約された情報の
参照による円
滑な連携**

ワクチン接種情報の連携



医療対策室の
運営で大切なのは。。

P O I N T

A hand holding a golden key, symbolizing leadership or a key solution.

指揮命令系統

本部長である札幌市長の
感染に向き合う真摯な姿

P O I N T



2 札幌市保健所と

大学との連携について





コロナ診療における
入院受け入れ

状況に合わせた
PCR検査

換気の調査

宿泊療養の運用と
療養中の医療介入

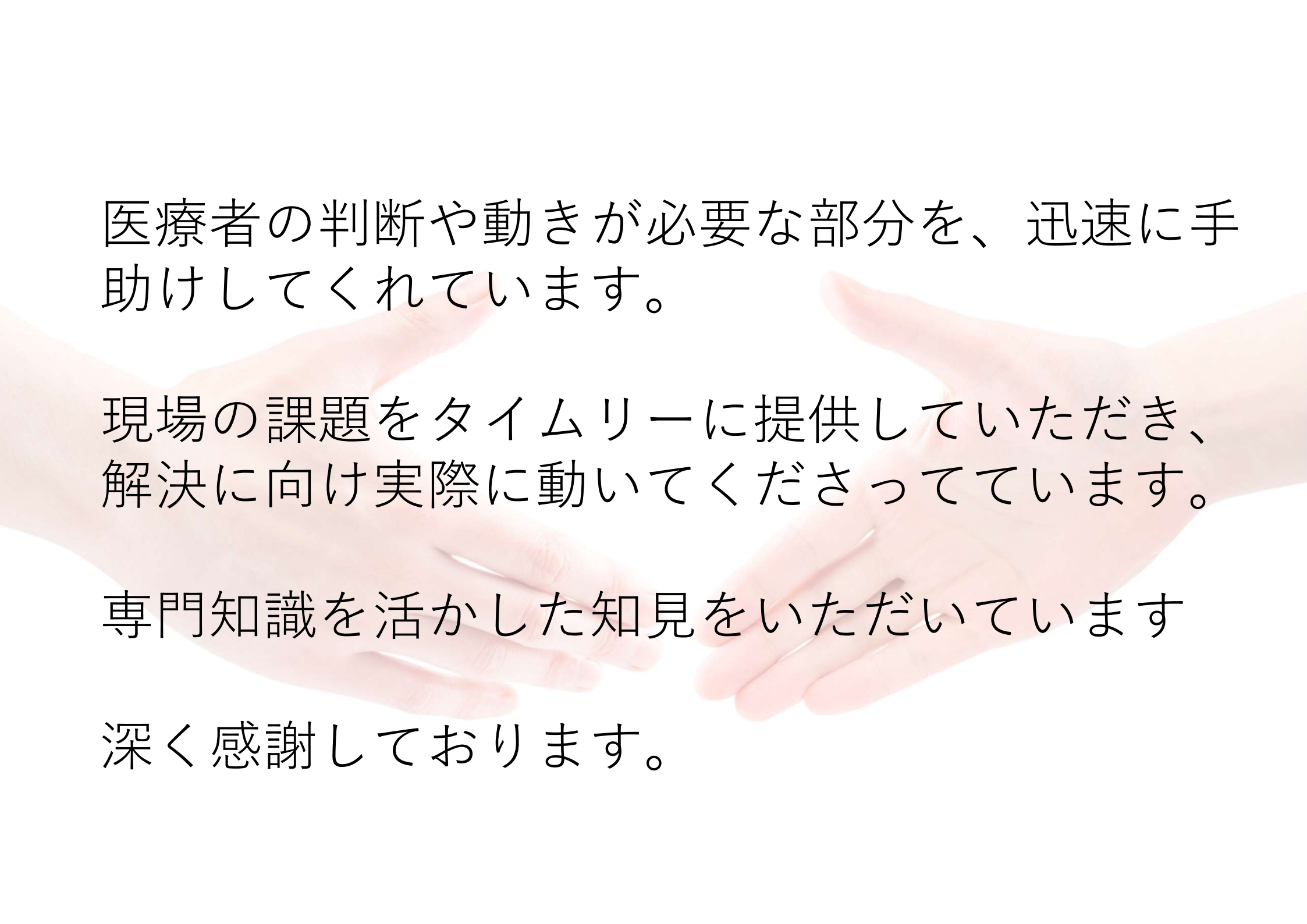
クラスター対応にお
ける現地視察

データの解析と傾向

入院調整業務

透析医療機関
対応

解析を基にした
戦略案



医療者の判断や動きが必要な部分を、迅速に手助けしてくれています。

現場の課題をタイムリーに提供していただき、解決に向け実際に動いてくださっています。

専門知識を活かした知見をいただいています

深く感謝しております。

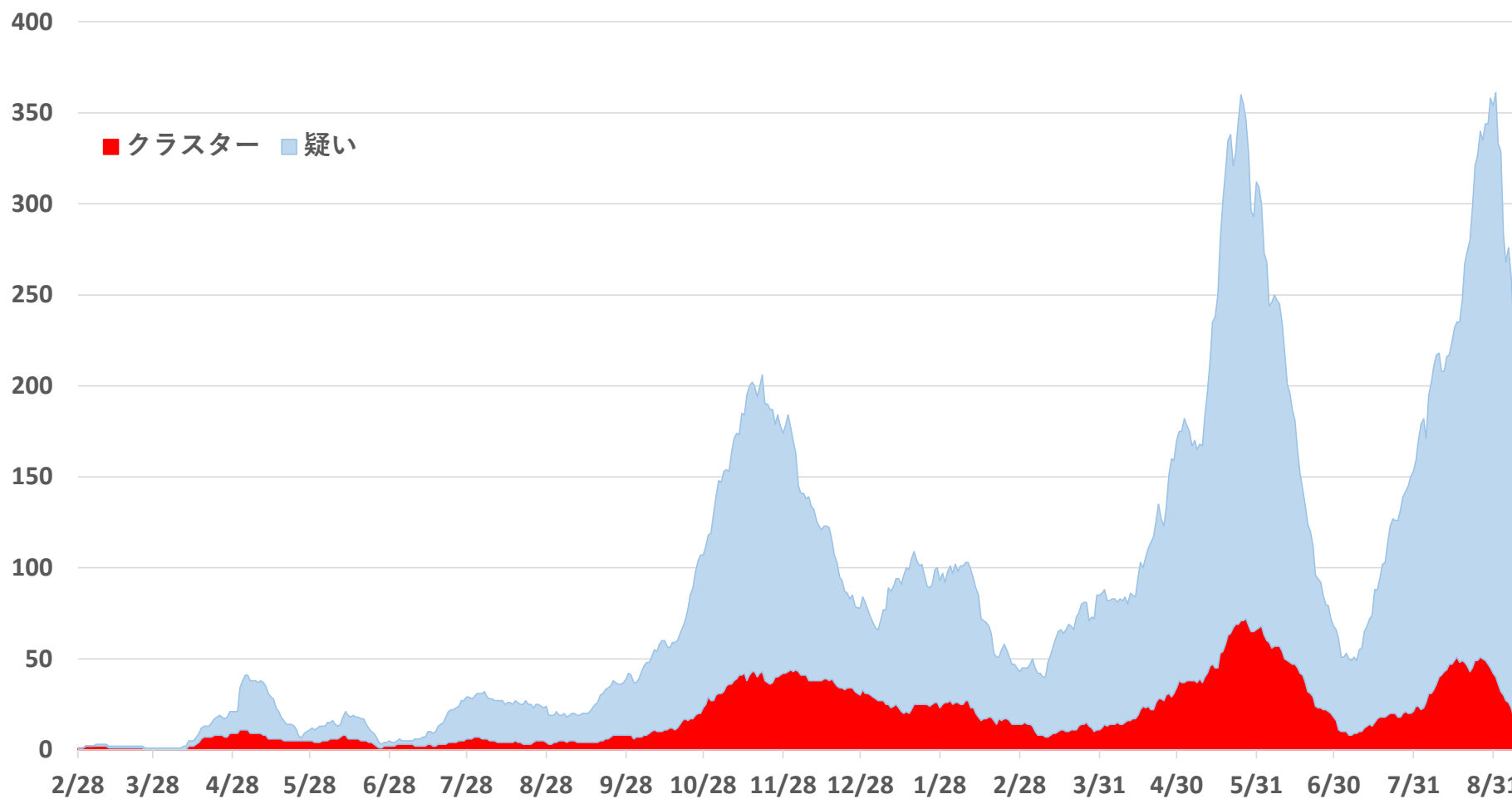


3 クラスタ対応と

医療機関や福祉施設との連携について



全クラスター及び疑い事例対応数の推移グラフ（R3.9.13現在）





札幌市の クラスター対応

疫学調整班

職場等が感染の場となる場合、その感染拡大防止のため、職場の濃厚接触者の同定、一斉検査や感染拡大防止策について支援し、今後の感染拡大防止のための分析を行い、フィードバックしていく

支援G (R3.1発足)

施設・病院・企業への立ち入りを行い、支援やアドバイスを通し感染拡大防止策を強化する

病院G

施設G

学校・幼稚園G

保育園G

その他（会社等）G

コールセンターG

接待を伴う飲食店G

職員利用者を問わず1名陽性者がでたら介入

職員生徒を問わず1例陽性者がでたら介入

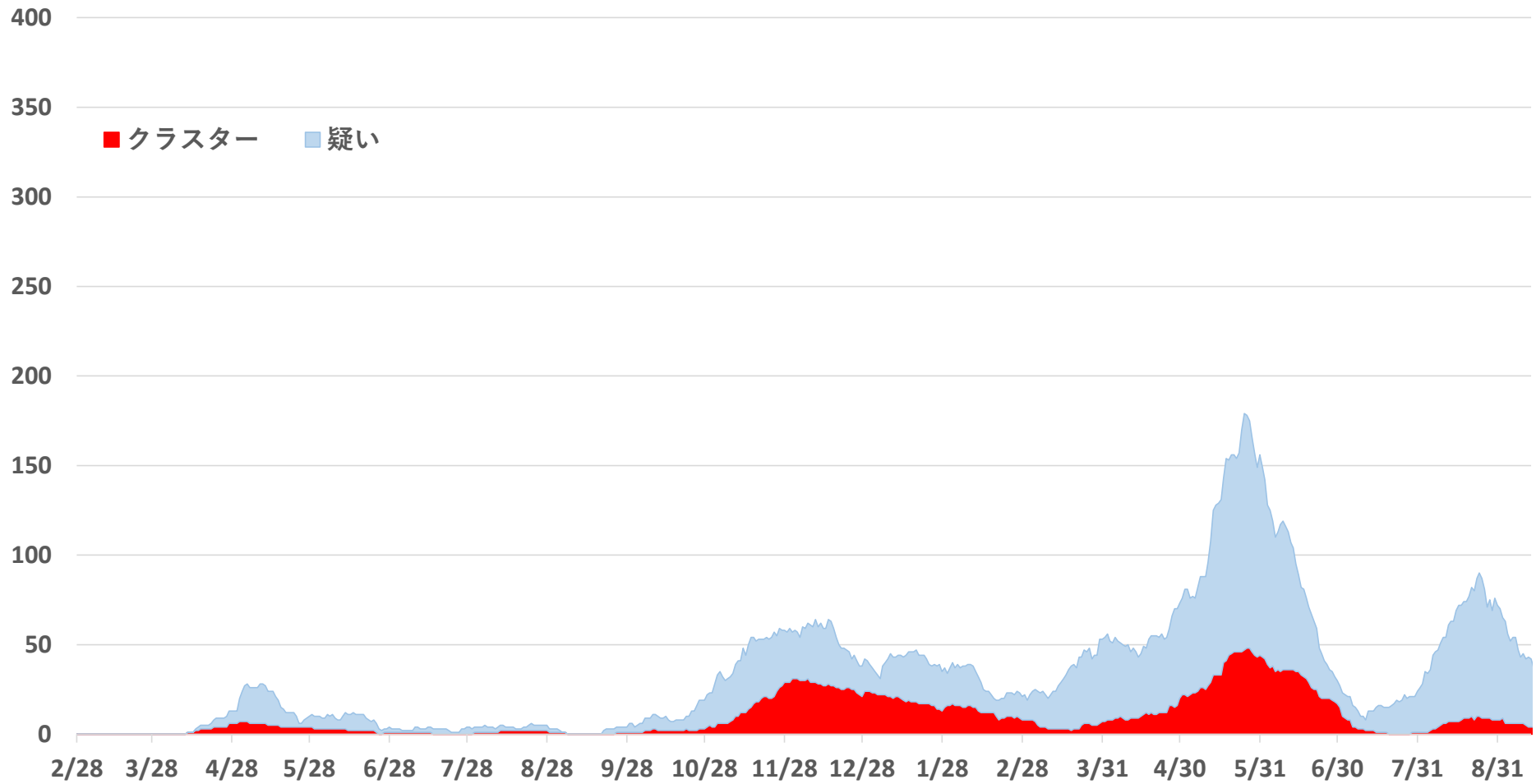
施設の状態や患者の発生状況等を考慮し、陽性者の人数は問わず必要に応じて介入

1例陽性者がでたら介入

従業員から陽性者が1名発生した段階、または、別グループの利用者が3名以上になった場合に介入

感染状況に応じ対応のレベルを柔軟に変更

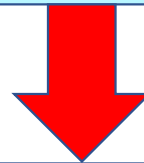
病院・施設クラスター及び疑い事例対応数の推移グラフ（R3.9.13現在）





第3波での施設でのクラスター対応

陽性者を入院させることで空間的分離を行い感染拡大を防ぐ
陽性者を入院させることで、患者数を減らし現場負担を減らす



陽性者を入院させられないので

施設でのゾーニングを行い、感染拡大を防ぐ
人材確保により、病院や施設の医療、看護、介護レベルを維持する





支援G：

疫学調整班として、主に新型コロナウイルスが流行している施設・病院への立ち入りを行い、支援やアドバイスを通し感染拡大防止策を強化する

支援の目標

施設、病院が、感染対策を行いながら自立して運営できるように手助けをする
施設内、施設外への感染拡大を防止する

総括G

- 施設概要を把握し立ち入り必要施設の判断と調整
- 支援目標の設定と共有
- 支援の方向性の共有と発信

支援G：医師＋看護師＋ロジで1ユニットとして活動する

医師G

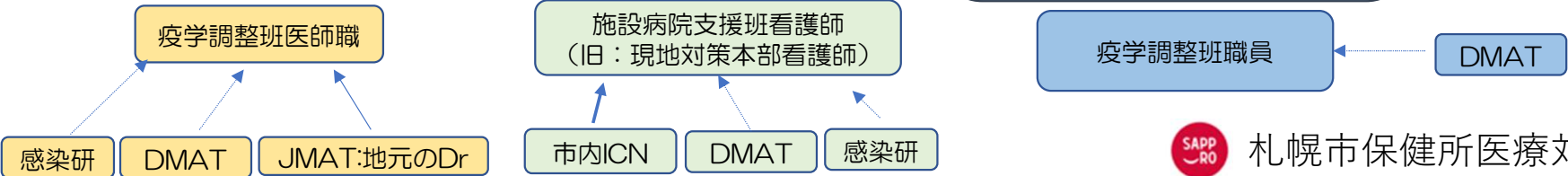
- 支援目標の設定
- 現状分析と課題抽出
- 施設病院との情報共有
- 支援方法の決定
- 感染管理指導

看護師G

- 実際の現場支援
- 現場職員のケア
- 感染管理指導
- 人員不足の試算
- 環境整備

ロジG

- 現状分析と課題抽出に必要な情報収集
- 感染管理に必要な貼付物等の作成
- 情報共有のための資料作成
- 人的、物的資材の手配の調整
- 支援の方向性の共有





系統だった支援方法の確立

- 感染状況の確認
- 検査状況
- 入所者の状況
- 濃厚接触者の範囲
- 病棟隔離解除日

- 感染管理支援
 - (ゾーニング、PPE内容決定、感染管理指導)
- 医療体制 (急変時、健康観察、医療提供範囲)
- 人的支援
- 物的支援
- 環境整備支援 (食事、洗濯、ゴミ、リネン)
- 職員ケア (生活環境整備、精神的ケア)

1/21

1. 感染状況

状況分析	入居	(+)	(-)
① 2F	13	4	9
3F	13	2	11
② 4F	0	0	0
5F	8	1	7
管理室	1	0	1
③ 6F	4	1	3
7F	6	1	5

濃厚接触者

- ① 20名
- ② 5名 (7高住)
- ③ 5名 123名

検査状況

PCR実施 ⇒ 有病者 (基準の設定)

BT 37.5℃ ↑
 37.4℃ ↓

2. 緊急医療・搬送状況

15:00現在 予定17:00 PA7.2000 検査

スト(2F) SpO2 ↓ → 市立札幌HPへ搬送済

マ7107(2F) SpO2 ↓

他6名の健康状態はOK (精密中)

変更時の70-

QA ⇒ 主治医へ相談 2名OK. 点検吸引はなし (7名. 他多数)

3. 感染制御

ゾーニング実施中

1F(7F) グリーン

2F 食堂: グリーン? 居室: 3つカ: レッド 205⇒1141 211⇒214

3F 食堂: グリーン 居室: 3つカ: レッド

PPE レッドゾーンはフル装備

方針

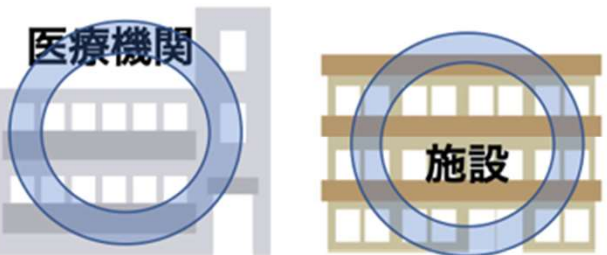
1. 感染状況

確認事項

BT 37.5℃ ↑
 37.4℃ ↓

疫学調整班支援Gの業務について

Phase A 陽性者は全員入院可



Phase B 陽性者が全員入院できなくなる



医療機関: 満床の場合ゾーニング困難
職員不足

小規模施設: 入居者・職員全員濃厚接触者
勤務できる職員と入居者のバランス
徘徊者の存在

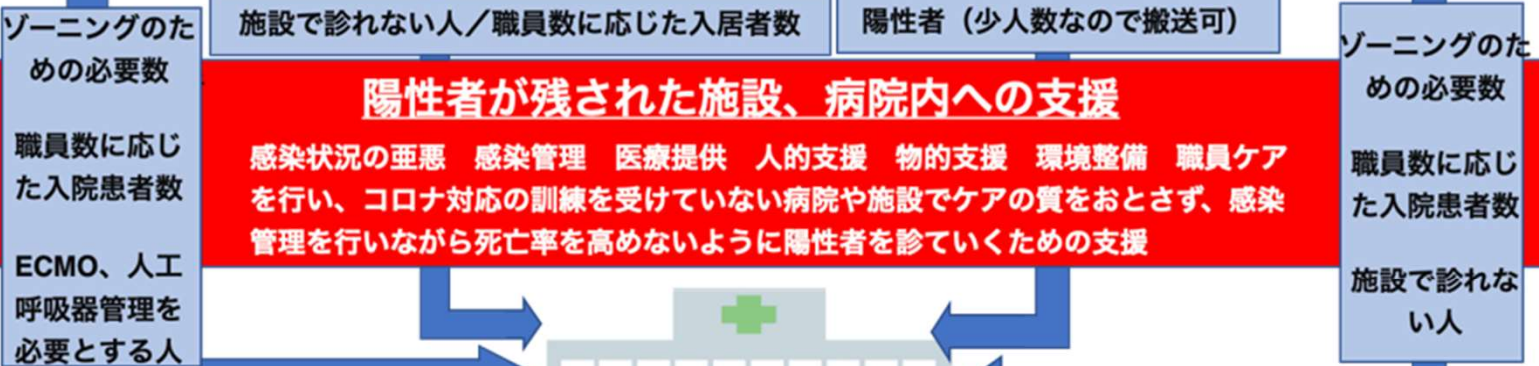
大規模施設 (陽性者少数): 広がると大規模クラスターとなる
陽性者を施設から出すことでの
感染拡大防止

大規模施設 (陽性者多数): 陽性者全員は搬出不可
満床時ゾーニング困難
職員不足

- 搬送待ち陽性者が数日滞在
- 濃厚接触者が残り、陽性となったときに感染拡大の恐れあり

- 内部での状況把握と感染指導を行い感染拡大を防ぐ
- 新規陽性者が発生した場合の対応を前もって準備

施設内の陽性者の健康状態の適切な把握とその後の対応の判断



重点医療機関

重点医療機関

第3波では、施設病院へ患者を留めなければ入院調整にさらに約6割増の負担がかかっていた

札幌市のクラスター対応の基本方針

クラスターは災害です。

災害が起こって大変なところにすぐに必要なのは、現場で困っていることにあつた「支援」です。指導や指示は正しいかもしれないけれど、すぐにできることばかりではなく、なかなかむずかしいことともあります。

その施設を訪問し、その場面にあつた支援をともに考え、できることの中でのベストを提案し、環境をつくっていく。経過に応じ、対応も変化させていく。共に考え、共に戦っていくのが札幌市のクラスター対応の基本方針です。

クラスターが発生すると、身体的、心理的、社会的にさまざまな困難が生じます。保健所では皆さんよりちょっと多くクラスターを経験してきました。その経験をいかし、少しでも困難が少なくなり、その施設に関わる全ての人にとっての最良の方法をとることができるよう支援を続けていく使命があると考えています。



支援の連鎖

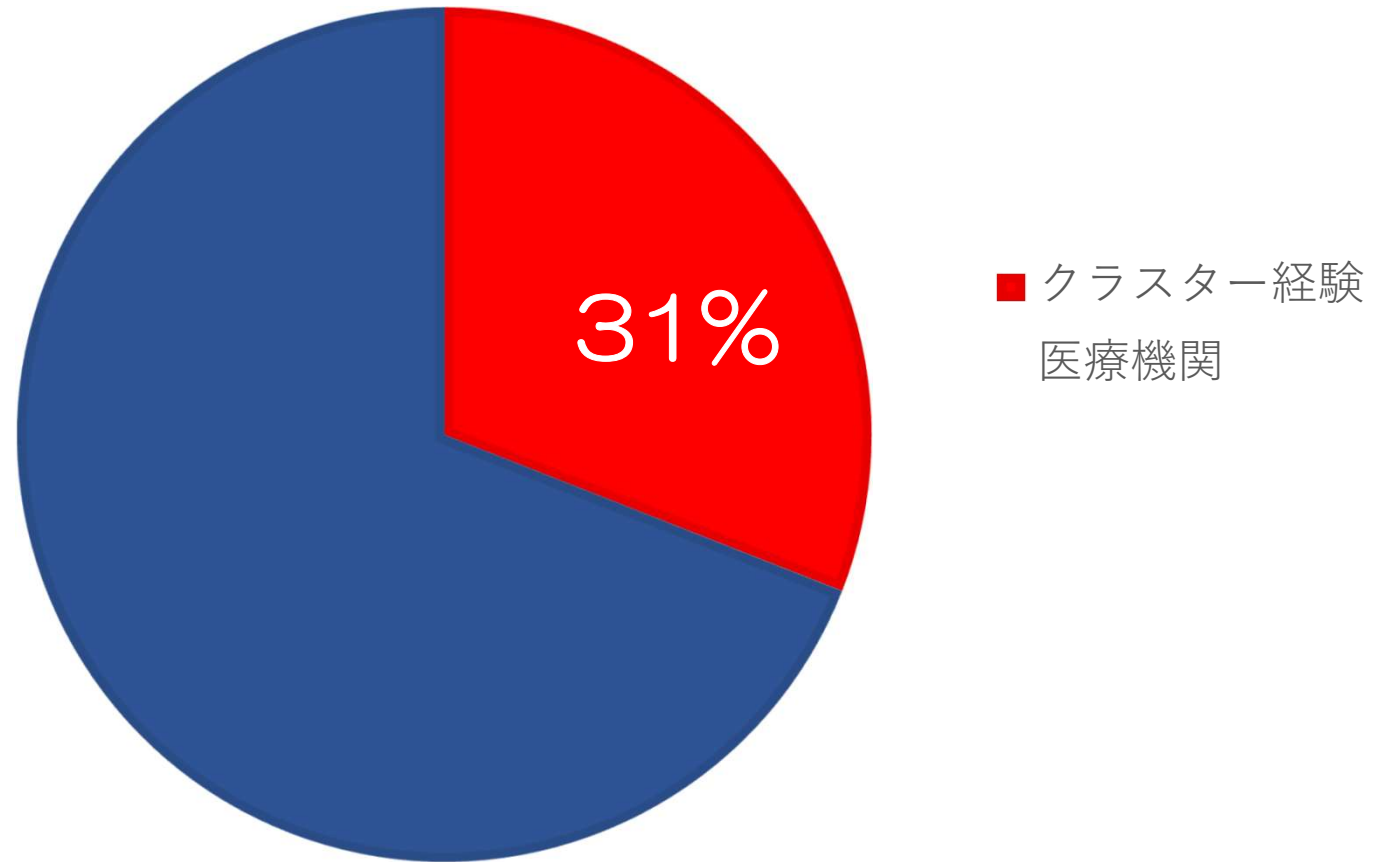


クラスターで支援に入った病院が
受け入れ医療機関になってくれる

P O I N T



クラスターを経験後、
受け入れ医療機関になってくれた医療機関



クラスターで支援に入った病院施設さんが
新たにクラスターになった
施設や病院を助けるために
看護師さんや介護士さんを
派遣してくれる

P O I N T



4 札幌市保健所と 札幌市医師会との連携について





PCR検査センター

発熱外来

夜間急病センター

在宅診療
電話診療

透析患者
妊婦 小児
精神科 対応

受け入れ医療機関

ワクチン接種

講習会

情報提供



COVID-19



第1部	2021	7.19	MON	18:30	~	20:30	-	第2部	2021	7.28	WED	18:30	~	20:30
-----	------	------	-----	-------	---	-------	---	-----	------	------	-----	-------	---	-------

令和3年3月に札幌に入り込んだアルファ株による感染者は、5月に急激に増加し、これまでに経験をしたことのない事態となりました。

自宅療養や施設内での療養も増え、多くの医療職が様々な立場でCOVID-19の対応に尽力されました。

この第4波で得た経験を共有することが、感染力が更に高いとされている第5波となりうるデルタ株の感染拡大を防止し、今後の医療対策を考える上で効果的であると考えます。

医療機関の皆様を対象として、第4波の医療現場を経験した医師によるオンライン・シンポジウムを開催します。

共 催

札幌市・札幌市医師会

PART 1

7.19 [MON] FIRST PART

- 18:30~ **開会挨拶**
一般社団法人 札幌市医師会

- 18:35~ **司会・シンポジスト紹介**
札幌市保健所疫学担当部長 中西 香織

- 18:40~ **シンポジウム**
テーマ
それぞれの医療機関で何が行われていたか
▽▽▽▽▽
コロナ病棟、在宅、施設や病院のクラスター、
外来透析でのコロナ診療のリアル
市立札幌病院消化器内科 医長 小野 雄司
医療法人 北海道家庭医療学センター
栄町ファミリークリニック 院長 中川 貴史
豊生会元町総合クリニック 院長 池田 慎一郎
JCHO札幌北區病院 副院長 東館 義仁
手稲漢仁会病院副院長 救命救急センター長 奈良 理
医療法人はまなす 獲路はまなすクリニック
院長 工藤 岳秋

- 19:40~ **情報交換**

- 20:25~ **事務連絡・閉会**

7.28 [WED] SECOND PART

- 18:30~ **開会挨拶**
一般社団法人 札幌市医師会

- 18:35~ **司会・シンポジスト紹介**
札幌市保健所医療政策担当部長 西條 政幸

- 18:40~ **シンポジウム**
テーマ
コロナ対応の仕組みに関わった医師が行ったこと
▽▽▽▽▽
入院待機ステーション、自宅療養、ホテル療養の仕組みから、
スタッフ派遣の仕組み、札幌市の傾向全体のまとめまで
北海道医療センター救命救急センター
部長 七戸 康夫
静明館診療所 理事 大友 宣
札幌医科大学医学部救急医学講座 助教 水野 浩利
札幌医科大学医学部公衆衛生学講座 助教
兼 循環器・腎臓・代謝内科学講座 小山 雅之
岡本病院 院長 岡本 貞敏
北海道大学大学院 医学研究院
社会医学分野 公衆衛生学教室 教授 玉腰 桃子

- 19:40~ **情報交換**

- 20:25~ **事務連絡・閉会**





「札幌市全体を大きな医療機関と考え対策を行っていく必要がある」

第1部

重点医療機関での診療
往診での診療
クラスター施設内での診療
透析医療機関の対応

第2部

往診、電話診療のしくみづくり
宿泊療養機関での対応
コロナ陽性の透析患者への対応
透析ME派遣事業
精神科看護師派遣事業
札幌市の感染状況の分析業務

どこで、どんな人が、どんなふうにコロナと戦っているのかがお互いに見えにくい。市内の医療機関のみなさんにそれを知ってもらうことでデルタ株対応における医療体制を築きやすくなるのではないか。

※医療者、行政関係者の方へ視聴用のURLを配布いたします。
ご希望の方は、covidsapporo@gmail.comまで





コロナの治療は、マニュアルにはでているけれど、実際にはどの治療をどんな場面で、どのようにおこなっているの？

年齢によってステロイドの投与量は変えたほうがいいのか？
どんな副作用がでるの？

感染症が専門ではないので、診療が不安
困ったときにはどこに相談したらいい？



情報交換することで解決することが多い



札幌市長と札幌市医師会長による共同記者会見



「皆さんと一緒に札幌を守りましょう！！」



市民の皆さまへ
医療機関において接種予約が
キャンセルとなった方は
こちらをクリックしてください

医療機関の皆さまへ
自宅療養者に対する医療提供
プロトコル第5版（全体版）
一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス

医療機関の皆さまへ
「予診票」の回収に関するお願い

医療機関の皆さまへ
自宅療養に関する情報共有
(メーリングリストへの登録について)

医療機関の皆さまへ
新型コロナウイルス感染症
自宅療養者への診療・訪問看護
マニュアル (Ver. 1.0)

新型コロナウイルス感染症情報

TOPICS **市内発生状況はこちら**

- > 発熱があり、医療機関に行くときは「事前にお電話を」
新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにご協力をお願いします。
- > 9/13(月)～9/30(木)、北海道における「緊急事態措置」(改定)
引き続き、札幌市を含む石狩管内と10市町村を他地域より強い対策を講じる「特定措置区域」に指定。
- > さっばる新型コロナウイルス・ワクチンNAVI
札幌市のワクチン予約受付速報、接種券発送状況、接種会場等ご確認いただけます。

医師会員への情報の提供、
講習会の実施

医師からの意見のフィードバック

さまざまな協力の呼びかけ




ま と め





感染対策で大切なのは

P O I N T

A hand holding a golden key, positioned on the left side of the image, pointing towards the text.

自分ごととしてとらえること
状況に合わせた柔軟な対応
正しい情報の適切な発信

P O I N T



THANKS

御視聴いただきまして、誠にありがとうございます
困ったときはいつでもお気軽に保健所までお問い合わせください

SAPPORO